

平成 25 年度

高校生ボランティア
活動報告書



編集・発行 NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構

愛媛県ヤングボランティアセンター

協力 松山ホストライオンズクラブ

(株)三宅公房

この報告書は平成25年度愛媛未来づくり協働提案事業の成果である

「高校生ボランティア育成事業」について

愛媛県教育委員会では、平成 19 年度より高校生のボランティア活動の支援拠点として、ヤングボランティアセンターを県美術館南館に設置し、高校生がボランティア活動について理解を深め、実践活動を通じた経験と知識をもとに活動の幅を広げてきており、平成 22 年度からは NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構との協働により、事業の一層の充実を図ってまいりました。

その間、専門的な支援や高校・地域との連携を図るとともに、東日本大震災の被災地でのボランティア体験や平成 24 年 4 月から 11 月にかけて開催された「えひめ南予いやし博」でのボランティア活動等を実施したことにより、高校生のボランティア活動に対する機運が高まってきており、高校生スタッフの登録者数、学校数ともに増加し、活動がセンターを中心とする地域から東予や南予にも広がりを見せていますが、これからも事業の充実と広がりが必要であると感じております。

このような中、NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構により、各高校におけるボランティア活動の実施状況が調査され、さまざまな取組み事例を収集しデータベース化されることは、今後のボランティア活動を展開していくうえでの指針・参考となるもので、ボランティア活動の高まりにもつながるものと期待しております。

また今後、高校生ボランティア活動事例発表会の開催が予定されており、高校生による活動の状況を県民の皆さんにも広く知ってもらうことは、地域社会における担い手として高校生の存在が認識され、ますます高校生の活動の環境が充実していくことにもつながります。

この報告書の活用により、県内の各高校や地域で実践しているボランティア活動がネットワーク化され、全県下で、高校生等が地域等で自主的に活動できる仕組みが構築されることを願っております。

ヤングボランティアセンターといたしましては、その実現に向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、関係の皆様には、御支援並びに御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本調査に御協力いただきました各高校の関係者の皆様と調査を実施していただきました NPO 法人えひめ子どもチャレンジ支援機構にお礼申し上げます。

平成 26 年 1 月

ヤングボランティアセンター所長
(愛媛県教育委員会生涯学習課長)

越 智 孝

Index

挨拶	1
目次	2
讃岐幸治「高校生の地域(貢献)活動を考える」	3~10

高校ボランティア地域(貢献)活動 71 事例

川之江・三島・土居・新居浜東・新居浜西	11~15
---------------------	-------

新居浜南・新居浜工業・新居浜商業・西条・西条農業	16~20
--------------------------	-------

小松・東予・丹原・今治西・今治南	21~25
------------------	-------

今治北・大三島分校・今治工業・伯方・弓削	26~30
----------------------	-------

北条・松山東・松山南・砥部分校・松山北	31~35
---------------------	-------

中島分校・松山中央・松山工業・松山商業・東温	36~40
------------------------	-------

上浮穴・小田・伊予農業・伊予・大洲	41~45
-------------------	-------

肱川分校・大洲農業・長浜・内子・八幡浜	46~50
---------------------	-------

八幡浜工業・川之石・三崎・三瓶・宇和	51~55
--------------------	-------

野村・宇和島東・宇和島水産・吉田・三間	56~60
---------------------	-------

北宇和・津島・南宇和・今治東中等・松山西中等	61~65
------------------------	-------

宇和島南中等・今治明德・今治明德矢田・今治精華・済美	66~70
----------------------------	-------

聖カタリナ女子・松山東雲・松山城南・新田・愛光	71~75
-------------------------	-------

松山聖陵・帝京第五・帝京富士・済美平成中等・新田青雲中等	76~80
------------------------------	-------

愛媛大学附属	81
--------	----

編集後記	82
------	----

高校生の地域(貢献)活動を考える

愛媛大学名誉教授 讃岐幸治

“And so, my fellow Americans;ask not what your country can do for you, ask What you can do your country.”(国があなたのために何をしてくれるかではなく、あなた方自身が、国(コミュニティ)のために何ができるかを考えようではありませんか。) ジョン・F. ケネディー大統領の就任演説、1961年1月20日、米国連邦議会議事堂

最近、高校生が地域に出向き、いろいろな地域活動をしている。絶滅種のアザサの保全に取り組んでいる、小中学生の通学合宿の世話をしている、観光ボランティアとして活躍している、老人ホームなどでお年寄りの世話をしている、地元の資源を使って商品開発をしている、などなど。いろいろな地域活動、ボランティア活動をしている。

かつても地域貢献やボランティア活動が行われていた。しかし、今日のようにそれらが盛んに行われるようになったのは、1995年(平成7年)に起きた阪神淡路大震災からである。約140万もの人が被災地に駆けつけたといわれる。そのときを契機として、ボランティア活動のとらえ方が変わった。ボランティア活動だからといっても、それは、なにも特定の人たちがやる特別な活動ではなく、だれでも気軽に、明るく、楽しく、どこでも取り組めるものだ。当たり前の活動として、だれでも取り組める活動だという雰囲気や風土が生まれてきた。

いろいろな人が地域活動やボランティア活動をするようになった。なかでも高校生の地域活動やボランティア活動が盛んになってきたが、それは、どうしてか。まず高校生の地域貢献、ボランティア活動が盛んになったわけからみてみよう。

I. なぜ、高校生の地域(貢献)活動は期待されるのか。

1) 地域社会の維持・発展のために

一つには地域にとって高校生の活動が必要なものとなっていることだ。地域にはさまざまな問題が起こっている。高齢者の介護、ゴミ処理の問題、郷土芸能や伝統文化の伝承、自然保護、環境保全・美化、リサイクル活動、国際交流、災害における支援活動、学習活動の支援など、生活のあらゆる領域で問題が起こっている。

これらの問題を解決し、住みよい地域にしていくためには、財政上の問題もあるが、いまや行政のみでは難しく、地域住民の参画・パワーが必要だ。なかでも祭りの神輿の担い手、街路樹の美化、災害時の避難やガレキの後の片付けなどは、若者の力にたよらざるをえない。彼らがいなければ、地域社会の存続維持すら難しいところも多い。地域

が高校生に期待し、彼らの活動を必要としている。

それだけでなく、高校生は、おとな世代と違って、社会の慣例やしきたりなどにとらわれることなく、社会の問題・矛盾を客観的にとらえ、どうすればいいか、あるべき社会を考え、構想することができる、そんな立場にある。ユニークな視点から発想でき、おとなではできない、ユニークな地域づくりや独創的な商品開発など、先駆的な開拓的な活動ができる立場にある。高校生に高校生ならでのユニークな活動を行い、地域に新しい風を起こしてほしい。そんな思いや願いが強まり、彼らの活動を期待し、頼りにするようになってきたことによる。

2) おとなの社会に入っていく準備として

もう一つは、おとなになるために必要な活動としてである。子どもからおとなになるということは、つくられる側からつくる側へ、育てられる側から育てる側へ、世話される側から世話する側へとようになっていくことだ。そのためには、どういう道筋をたどればいいのか。子どもは、おとなになるためには、おとなの中にまざりながら、おとなや同僚の仕事ぶりを見聞きし、手伝ったりしながら、他人の世話にならずに自立できる力を身につけるとともに、すすんで他人のために働こうとする積極的な意志と能力を持つようになっていくことが必要だった。

言い換えれば、子どもは、多様なおとなとの交流やいろいろな共同体験を通して、自分にも何かができるのだという自信と、だれもがみんな必要な人間になることができることを、体験を通して理解し、さらに全体のなかで自分がどんな役割と責任を担えばいいかを理解し、それを実際に担えるようになったとき、はじめて成熟したおとなの社会に入っていけたのである。(注1)

ところが、現在のわれわれの社会は、若い世代を同年齢のものだけからなる不自然な社会に閉じ込め、彼らがおとなの生活に参加し、おとなとして処遇され、おとなの自覚がもてるようになる時期を遅らせ、成熟したおとなになりにくくしている。そうしたなかで、地域活動やボランティア活動は、おとなの社会にかかわりながら、「自分にも何かができ、他人の期待に応じて役に立つことができる」という、おとなとしての条件である有能性と責任性を身につけ、おとなになるために必要な活動になっている。おとなになるための準備に必要な活動としてである。

3) 豊かな学びの機会・場として

最近の高校生は、自尊感情が低い、人との関係づくりが下手だ、また相手の立場に立って考えることができない、とよくいわれる。それに対して地域活動やボランティア活動をしている高校生たちは、さまざまな問題に対して、それらを自分の問題としてとらえ、多様な人たちと協働しながら解決にあたっているためか、自尊感情や社会的有用感、コミュニケーション能力が高い。生きる力を培う活動として必要な活動だ。

また、地域貢献やボランティア活動をするということは、地域や他者が抱えている課題を解決するために、これまで習得してきた知識や技術、あるいは経験などを総動員して取り組んでいくことになる。これまで学習してきた成果を応用・発展させることになる。知の総合化を図っていく活動として重要だ。

さらにそれは、他者や地域とかかわることを通して、もう一人の自分を発見したり、世の中の矛盾や問題を発見したり、あるいは生きることのすばらしさを発見したり、生きている証を確認したり、「必要とされる自分」を発見していくことになる。人間としてよりよい生き方を探し求めていくことになる。

地域にとっても高校生にとっても、地域活動やボランティア活動は大事な活動だということになれば、高校としても、それを無視するわけにはいかない。そういうことで、かつては高校といえば、地域から浮いた存在だったが、今や、高校生の地域活動を推進する方向で、多くの高校が「地域に開かれた高校」へ、「地域に根ざした高校」へ、さらに「地域とともに歩む高校」へ変わってきている。

Ⅱ. 教育活動としてボランティア活動の導入は可能か。

1) 地域(貢献)活動とボランティア活動

これまで地域(貢献)活動、ボランティア活動が何を意味するか、それらを定義することなく、これらの用語を使ってきた。それというのも、活動している当人は楽しみで活動しているが、その活動が第三者からみればボランティア活動となっている。たとえばバンドを組んで老人ホームなどで音楽活動をしている。当人たちは、そこを会場として練習を兼ねながら演奏活動をしているつもりだが、それは老人ホームの人たちのために行われている活動と見ることもできよう。

第一、人はどうしてボランティア活動をするか。その動機をみても、一つには精神的存在として、他者の不幸や災難、社会の困難や矛盾に触れたり、見聞きしたとき、いたたまれない気持ちになり、何とかしなければと慈愛的に働きかけていくであろう。もう一つは、主体的な存在として、だれしも自分を表現したい、自己実現したいという思いがあり、他者や社会の役に立つものなら、自分の持ち味、特技、経験などを役立て、活かそうとする。さらには、社会的存在として、社会の構成員の一人として、他者や地域のために働くこと、自分でできることをやるのは当たり前だとの思いから活動する場合がある。このようにボランティア活動の動機からして、さまざまである。

したがって、ある活動をボランティア活動とみるか、自己表現活動とみるか、貢献活動とみるか、一概には決めかねる。しかし、以下の論をすすめるために、ここで一応定義しておくことにする。

最も広いのが地域を舞台に行われる体験活動一般を地域活動と呼ぶことにしている。

そして、それら地域活動のなかで「他者や地域のために行う活動」を「地域貢献活動」(奉仕活動)と呼ぶことにする。そして、他者や地域のために行う活動である地域貢献活動のなかで、自発的・自主的な地域貢献活動を「ボランティア活動」と呼ぶ。別の言い方をすれば、ボランティア活動とは、「自発的・自主的な地域貢献活動」と呼ぶことにする。三つの活動をこのように関係づけておくことにする。(図1参照)



2) ボランティア活動と学校教育 —他律から自律へ—

世の中には環境問題、介護の問題、安全や災害防止の問題、さまざまな問題が横たわっている。それらを見過ごすわけにはいかない。精神的存在として、主体的存在として、あるいは社会的存在としてであれ、それらの課題に取り組んでいく必要がある。

それは、「他者や社会のため」になるだけでなく、「自分のため」にもなることだ。ウィストン・チャーチルがいうように、「われわれは何かを得ることによって生計をたてることができる。だか、われわれは何かを与えることによって人生を生きることができるのだ」。高校生のためにも、ボランティア活動を体験させたい。部活動でいい、学校行事でもいい、授業の一部としてでもいい。学校教育として生徒たちにボランティア活動を体験させたい、そういう願いが強まってきた。

しかし他方、ボランティア活動を教育活動として取り入れるとなれば、生徒の意思にかかわらず、それを一斉に強制的にやらせることになる。それでは自発性、自主性を基本とするボランティア活動の精神を歪曲してしまうことになるのではないか。ボランティア活動を学校の教育活動として導入することは無理だ、こういう疑問なり、批判が起ってきたのである。どうするか。

確かに学校は、生徒の意思にかかわりなく、カリキュラムや時間割にしたがって、決められた内容を強制的に教え込んでいる。生徒は、数学が嫌いだからといって、数学の時間をサボるわけにはいかない。国語の時間に運動場に出てサッカーをするわけにはいかない。生徒にしてみれば、自分らの意思を無視して、いやなことでも、決まっているから、必要だからということで、スケジュールにしたがって、強制的に一方的に学ばされる。学校では好きなことを好きなようにすることは許されない。そこでは強制的、他律的な学習が行われる。そういうところで自発的、自主的な活動であるボランティア活動を取り入れるということは、無理なことだというわけだ。

このように学校では、生徒の意思にかかわらず、強制的・他律的に学習させられるが、だからといって、いつまでも強制的、他律的な学習がつづけられることを願っているわけではない。嫌いな勉強であれ、それをすすんでやるようにするところが学校だ。つまり学校は、強制的・他律的な学習を、自主的、自律的な学習へと転化・発展させていく。ここに学校教育の本来の役割があろう。

では、嫌々している学習を、どのようにして自らすすんで学習するようにしていくのか。他律的・強制的な学習を、どのようにして自発的・自律的な学習へ転化・発展させていくのか。それには、大きくいって三つあろう。

一つは学習が自分の利益になると意識づけることである。「手段としての学習」を意識させるやり方で、たとえば数学は嫌だが、いい点をとれば小遣い銭がもらえるという場合、小遣い銭をもらうという目標を達成させるために、その手段である数学の勉強をするうちに、数学自体が面白くなり、すすんで数学の勉強をするようになるというものである。さらに自分の利益のためではなく、他者や地域の幸せや利益のために、それを実現するために、手段としての学習をしていくうちに、嫌であった学習が次第に面白くなり、すすんで学習するようになる。こういうやり方がある。

一つは「習慣としての学習」、つまり強制的に嫌々やっていたことでも、それが習慣化することによって、それをすすんでやるようになるというものである。歯磨きや手洗いにしろ、最初は強制的、他律的にやっていたことでも、やり続けていくうちに、やらないと違和感を覚え、不快になり、罪悪感を持ち、落ち着かなくなる。やることが自然になってくる。他律的、強制的な学習でも、それを習慣化することによって、やるのが当たり前となり、自らすすんで学習するようになるというものである。

一つは「遊びとしての学習」と呼んでいい。学習は本来面白いものである。好奇心、想像力、表現力などをともない、新しい発見、新しい世界、面白い世界を切り開いてくれるものである。そこで学習を遊び化し、楽しいものへ転化させることで、すすんで学習するようになるやり方がある。(注2)

以上みたように、学校は、強制的、他律的な学習を、自発的、自律的な学習へと転化・発展させる場所といえる。この考え方に立てば、最初は強制的、他律的にすすめられる他者や地域のために行う活動である社会貢献活動を取り入れるが、それを手段化、習慣化、遊び化の方法を通して、次第に生徒たちが自発的、自律的に他者や地域のために行う活動、つまりボランティア活動をしていけるようにすることはできよう。

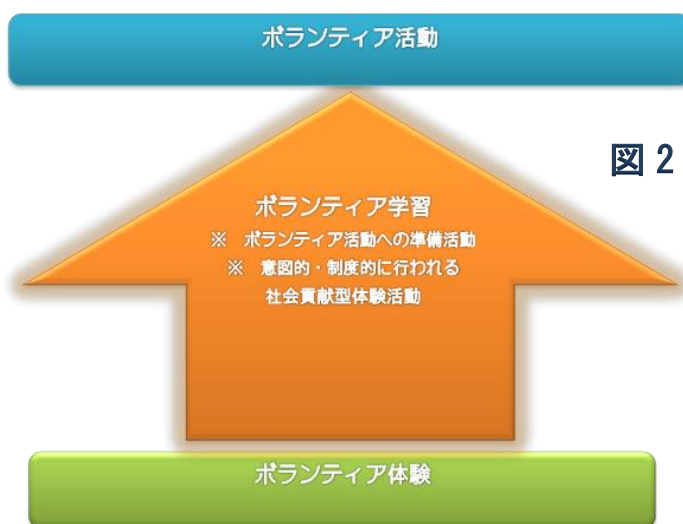
3) 準備段階としてのボランティア学習

学校としては、本来の意味でのボランティア活動そのものを取り入れることは無理だが、他者や地域のために行う貢献活動を体験させながら、次第に生徒自らが自発的・自律的にボランティア活動できるようにしていくことはできよう。

そこで、ボランティア活動を学習していくための準備活動という意味をこめて、貢献

活動を「ボランティア学習」と呼ぶことにし、それを学校教育に取り入れることにしたのである。つまり、「ボランティア活動に対する意欲や関心を高め、それに必要な資質・能力などの育成をめざして、学校の内外で意図的また、制度的に設定して行われる社会貢献型の体験学習」を「ボランティア学習」として学校教育に導入し、青少年がボランティアとして活動していくために必要な資質・能力を身につけていくための体験学習としたのである。(注3)

具体的には、生徒たちが社会福祉体験、伝統文化の継承、人権問題や環境問題、地域づくりなどの課題に取り組むを通して、それらの課題を自分の課題として感じ、それらを解決するための知識やスキルを身につけ、自主的に行動できるボランティアとなることを目指すものとして、学校教育のなかに取り入れることにしたのである。したがって、学校でボランティア活動と呼ばれるものは、厳密に言えばボランティア学習として取り入れられているものである。(図2参照)



Ⅲ. ボランティア学習の構造と展開

1) 体験の内面化こそ大事

ボランティア活動ができるようになるためには、ボランティア学習が必要だからといって、ただ社会貢献活動をさせればよいというものではない。体験させればよいというものではない。ボランティア学習をすすめるのは、それを通して、自らすすんでボランティア活動を行うような主体になっていくためである。体験を内面化させる必要がある。

では、どういう体験をさせればいいのか。「われわれ一人ひとりには、なにかの出来事に出会ったからといって、それがただちに、われわれの生の全体性に結びついた経験になるわけではない。」「なにかの重大な出来事に出会ったとしても、ほとんどなにも刻印を残さないような経験もある。つまり内面化されることもない、うわの空の経験というものがある。」(注4)

体験が単なる出来事でおわるか、それともそれが内面化され、生き方の一部に繰り込まれるかどうかは、他者や社会にどう「かかわったか」にかかっている。どんな問題で

あれ、それを「他人の問題」と片付けずに、ある種の切実さを感じて行動することが重要なのである。「人間が他人に対してつねにたんなる傍観者としてふるまうことができるかどうか、あるいは、共に悩む者、共に喜ぶ者、共に罪ある者であるかどうかは、決定的な違いである。後の者だけが、本当に生きている人間である。」(注5)

体験が単なる体験で終わることなく、それが内面化されるのは、自分で、自分の体で、抵抗物を受けながら、活動し苦しんだときであり、そのときはじめて体験は内面化される経験になるといえよう。「ここで『自分で』というのは、他律的にあるいは受動的にではなく、自分の意志で、あるいは能動的にということである。次に、『自分の体で』ということは、抽象的あるいは観念的にではなく、身をもって、身体をそなえた主体としてということである。そして最後の、『抵抗物をうけながら』というのは、環境や状況に簡単に順応して、いわば現実の上を滑っていくのではなく、現実が私たちへの反作用としてもたらす抵抗を、私たちを鍛えるための、また現実への接近のための何よりのよすがとして、ということである。」

体験が生きる力として内面化するのには、このように「能動的に」、「身体をそなえた主体として」、「他者からの働きかけを受けながら」振舞ったときである。(注6)

したがって、ボランティア学習をすすめるにあたっては、つねに体験ごっこに終わらないように、少なくとも基本的な心得として、

- (1) 目的をはっきり理解させる、
- (2) 与えられた仕事に責任を持つようにさせる、
- (3) 自らも学び、かつ向上発展していく、
- (4) じっくりと活動を振り返える、

ようにしていくことである。

2) ボランティア学習が培う資質・能力

ボランティア学習は、どのような資質・能力を育成していくのか。具体的には、つぎの四つ力を育成することをめざしている。

(1) それは、地域や他者が思い悩んでいる問題、課題を探り出し、それを解決するためにどうすればいいか、いやより積極的に地域や他者の幸せのためにどうすればいいかを探り、解決策を見出し、新たな価値の創造に取り組んでいくことを通して、課題の発見・解決能力の育成、つまり探究力(research)を培っていくことをめざしている。

(2) それは、地域や他者の立場を理解し、その身になってものごとを見たり考えたり

することを通して、他者認識を深め、他者への共感能力を育成し、他者と共に生きる力、相互扶助の精神を育成していく。互惠力(reciprocity)の育成をめざしている。

(3) それは、個人的な利害を超越して、社会の改革や変革をもとめて、あるべき公共社会を構想し、その建設のためにどう生きていけばいいか、社会の構成員としての自覚と責任を培う。責任力(responsibility)の育成をめざしている。

(4) 最も大事なことだが、それは、ボランティア活動のもつ自発性・自主性を基本に据えることで、のびのびと自己を解放し、あるがままの自分を取り戻し、新たな自分を見つけ出していく活動として、生きるようとする熱気、元気(refreshment)を培う。

ボランティア学習は、3Rs とともに必要とされる、新たな学力ともいうべき四つの R_s の育成をめざしている。

3) これからの課題として

高校生の地域貢献活動の、ボランティア学習をより推進していくためには、一つには、その意義と目的を教師たちが共有していくこと。二つには、その評価をどうするかをはっきりさせていくことである。三つには、救援的な援助的な活動を大事にしながらも、高校生でなければならない開発的、創造的な活動がより活発になることである。四つには、活動がマンネリ化しないように、できるだけ他の学校との交流、世代や地域を、あるいは国を越えての交流を深め、活動の広がり高まりを持たせるようにしていくことが望まれる。

注 1. ランゲフェルド, M. j. 岡田渥美、和田修二監訳「続* 教育と人間の省察」(玉川出版社 昭和 51 年 124-126) 頁

注 2. 新堀通也「サバイバルのための教育」(広池学園出版部 昭和 63 年 295-297 頁)

注 3. 讃岐「生涯学習社会教育実践用語解説」(全日本社会教育連合会 2002 年 162 頁)

注 4. 中村雄二郎「臨床の知とは何か」(岩波新書 1995 年 63 頁)

注 5. 中野孝次「人生の実りの言葉」(文芸春秋 2002 年 213 頁)

注 6. 中村雄二郎「哲学の現在」(岩波新書 1978 年 122 頁)



愛媛県立川之江高等学校

〒799-0101

愛媛県四国中央市川之江町 2257

TEL 0896-58-2061

FAX 0896-58-8990

明治 41 年、組合三島女学校として三島町に開校

昭和 23 年、学制改革により、新制高等学校、愛媛県立川之江高等学校となる。

自らの生き方を問い、他との共生を通して心豊かな人間性の涵養に努め、目的意識を持ち、社会に貢献できる人材を育成することを目標に、何事も高校生らしく勇気をもって挑戦し、川之江高校生の誇りを胸に自覚ある行動をとり、自分に素直で人に感謝できる豊かな人間を育むことを目的とする。

学級数：24 生徒数：814 名 普通科

地域の活性化のお手伝いをする

四国中央市の取り組みの一環で、毎年、市内の他校の生徒とともに「書道パフォーマンス甲子園」での運営のボランティアをしているが、本校の生徒の一部は 2 か月前の企画段階から参加している。

他には、地域の金生川にての清掃。1 時間くらいを目安として、数十名単位、時間のある人をお願いしているが、毎回違うメンバーが集まる。

地域の「盆踊り夏祭り」では、地域の方々も高校生の参加に感謝していただき、食事券やゲーム券等を用意してくれたりする。

他には、社会福祉施設や児童館でのイベントの補助、高速道路インター付近のイルミネーションの取り付けや取り外し等がある。

学校の方に地域からの依頼があると全校生徒に希望者を募るようにしている。生徒は、形になるボランティアをすると、自分たちが作り上げたという達成感を感じるようである

高校生は社会体験が乏しい。イベントに参加して異年齢の方と触れ合い、また、福祉体験を通して、自分の将来を考える生徒も少なくない。

しっかりとした目的意識を持って参加する生徒がいる一方で、適当な気持ちで参加する生徒もいる。事前に生徒への動機付けや指導をどう行っていくのか今後の課題である。



書道パフォーマンス 当日





愛媛県立三島高等学校

〒799-0405

愛媛県四国中央市三島中央 5 丁目 11-30

TEL 0896-23-2136

FAX 0896-23-2998

1923 年、愛媛県立三島中学校として開校。今年で 90 年の歴史を刻む。

男女共学の大規模校、旧伊予三島市唯一の高校として、多数の有為な人材を輩出する。

「夢をかなえる三島高校」をスローガンに、学校行事やボランティア活動、読書活動、国際交流活動など多様な場を提供し、生徒一人一人が、豊かな人間性を養い、将来、地域で、全国で、さらに世界で活躍できる社会人となるための支援をしている。

学科：普通科（1.2 年 6 学級 3 年 5 学級）商業科（1.2 年 1 学級 3 年 1 学級・情報デザイン科 1 学級）

生徒数：911 名

ボランティアの学校といわれる所以

学校には地域の団体からの高校生ボランティアの依頼がたくさんやってくる。全校生徒に周知させて、参加するかそうでないかは生徒の自主性に任せてある。また、VYS などの部活動、選択授業科目の中での活動など、学校挙げてボランティア活動を推進している。



花植えボランティア

例えば、三島公園桜祭りにおける美術部の似顔絵ボランティアや四国中央市紙まつりや四国中央市産業祭り等でのお手伝い、イルミネーション取り付けボランティア、書道パフォーマンス甲子園（全国規模主催四国中央市）での運営のボランティア、ワークキャンプなど、四国中央市内において幅広い活動を展開させている。また、発達・保育の授業は、地元の幼稚園の運動会等に参加させていただいて、園児とのふれあいやお手伝いをしている。

数十年継続している「愛と心の交流体験」は、毎年、市内の障害者施設の子どもたち（小中学生）を高校に招きクリスマス会を開催している。VYS 部、ダンス部、音楽部、吹奏楽部、書道部、美術部等が趣向をこらして、子どもたちを楽しませてくれる。中学生はそのお返しに、日ごろ練習を重ねてきた成果を発表してくれることもある。

学校外で地域の方々とかわり、生きた経験を積んで地域を知ることが出来ることや、目指す進路や興味のある職種についても体験することが出来る。その経験が大学等のボランティア評価として進学に活かされることもある。

毎年、各所よりたくさんのボランティア参加の依頼がある。高校生ボランティアの働きを期待していただき感謝している。



交流学習会



愛媛県立土居高等学校

〒799-0701

愛媛県四国中央市土居町中村 892 番地

TEL 0896-74-2017

FAX 0896-74-7221

明治 34 年 愛媛県宇摩郡三島町に宇摩郡立農業学校として創立 大正 11 年 宇摩郡小富士村に移転

昭和 24 年 高等学校再編成により愛媛県立小富士高等学校として開校

昭和 30 年 町村合併により愛媛県立土居高等学校と改称

自学・健康・礼節を校訓とし、教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた心身ともに健全で個性豊かな人間を育成することを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：309 普通科（2年次より進路希望に応じて、2つの類型と5つのコースに分かれる）

先輩たちの活動を継承する

本校では、愛媛県や四国中央市からのボランティア情報をホームルームや掲示板を利用して学校から生徒へ情報提供をしている。

活動内容は、愛媛ふれあいのみち（愛ロード）活動、保育園と運動会での交流、四国中央子育てフェスティバルボランティア、土居町手をつなぐ子らの交流会、保育園児・小学生との田植・稲刈り交流会、小学生とのサトイモ交流会、ミカン狩り交流会、老人保健施設「ちかい」訪問、四国中央市内でのワークキャンプ、関川河川敷清掃活動、土居おやこ広場（子育て支援ボランティア）等である。生徒は先輩たちが続けてきたこれらの活動を自分たちも継承するという気持ちが当たり前となっている。また、地域の方々との交流を通して、地域の方々に大切にされていることを感じ、生徒の達成感や自己肯定感につながっている。



活動は、毎年決まった時期に継続して行っているため、地域とのつながりがかなり確立されてきていると感じる。生徒たちも楽しみにしており、毎年参加している生徒もいる。地域の方も好意的に接してくれ、丁寧に指導してくれる。そのため生徒も自信をもって前向きな取り組みができています。普段接することのない方と話すことで、自分の学校生活や将来について考えることのできるいい機会である。

本校では、就職率が60%を超えるため、学校行事を利用したボランティアが企画しやすい。充実した内容の活動をたくさん提供できると思う。



愛媛県立新居浜東高等学校

〒792-0864

愛媛県新居浜市東雲町 2 丁目 9-1

TEL 0897-37-0149

FAX 0897-37-0148

1940 年、新居浜市立新居浜東中学校として開校

1949 年、高等学校再編成により現在に至る

新居浜市の東部に位置し、校訓「気魄邁進・和協敬愛・剛健真摯」のもと、伝統的に文武両道の校風の中で豊かな人間力を備えた生徒の育成を目指している。

勉学とともに陸上やバドミントンなどの運動部や吹奏楽、ディベートなどの文化部も全国的な活動を続け成果を上げている。

学級数：24 生徒数：911 普通科

ボランティア活動で生徒の自主性を育む

主に、家庭科クラブと生徒会活動を中心として地域の諸団体と交流している。地域でのボランティア活動は、地元の児童センターや保育所、高齢者福祉施設、障害者施設、作業所等から家庭クラブが依頼を受けて、参加希望生徒を募集する形で実施している。生徒は大変意欲的で、応募者が時に定員の 5 倍を超えることもあり、参加生徒を決めるのに毎回抽選が必要なほどである。この活動を通して、将来、保育士や看護・介護系に進路を決めた生徒も少なくない。

礼儀正しく判断力を持って積極的に動く生徒が多いことから、施設からの評価も高く、「来てくれてよかった」と言われることが多い。但し、施設からの要望とこちらの考え方のギャップに苦勞することもあるが、生徒はボランティア体験をすることによって、確実に成長している。

東高でのボランティア活動体験から発展し、自主的にグループを結成して独自の活動を行っている生徒もいる。元生徒会長が有志と共に立ち上げた『チーム浜チョコボ』は、社会人となった現在も新居浜市の活性化のために「ちょこっとボランティア」で街づくりをしている。また、『新居浜ゆるキャラ製作委員会』の活動を通してゆるキャラ「まちゅり」を誕生させ、街を活気づけようとしているグループ。



家庭クラブ活動を通じたボランティアは年々依頼数が増え、事前の生徒指導や引率に担当教員の責任も重くなっている。地域の期待に応えることとのバランスが今後の課題と言える。

ボランティア体験を通じて、職業意識や自己肯定感、他者とつながる力を育み、自主的に活動できる人となることを願っている。



愛媛県立新居浜西高等学校

〒792-0024

愛媛県新居浜市宮西町 4-46

TEL 0897-37-2735

FAX 0897-37-5751

大正 6 年新居浜町立新居浜実践女学校として創立。

昭和 23 年学制改革より愛媛県立新居浜第二高等学校となる。

昭和 39 年愛媛県立新居浜西高等学校として発足。

校訓「自律生活」「自主学习」「自己鍛錬」の考えを中心に、「魅力ある進学校」を目指して、自らの人格を磨き、徳・知・体の調和のとれた、個性豊かで国際感覚にあふれ、我が国の発展に貢献することのできる、心身ともに健全な人間を育成することを教育目標にしている。

学級数：21 生徒数：840 普通科

生徒会から被災地への支援を呼びかける

生徒会は、宮城県石巻市のボランティア団体が、被災した犬や猫を保護していること、動物の体を拭くのに大量のタオルが必要なことを知り、「義援金以外にも自分たちでできることをしたい」と全校に古タオルの寄付を呼びかけた。この活動は、全校挙げての取組となった。

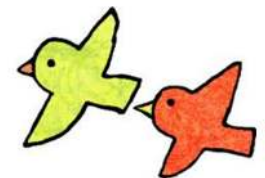
さらに、南相馬市 NPO から、仮設住宅の子どもたちへ衣類の支援をお願いしたいという要請があり、生徒会が中心となって、衣類の回収を全校に呼びかけた。集まった衣類の仕分けをして、サイズ別に段ボールに詰めて、開封しなくても何が入っているか分かるように工夫した。この活動は新居浜市内の 5 つの高校生徒会にも広げて協力をお願いした。被災地からは、お礼の手紙をいただき、きちんと分別・仕分けされた物品が送られてきたことに感謝された。

今年度の生徒会はその活動に加えて、津波で大きな被害を受けた東北沿岸部の復興のために、全国の小中学校で被災地に植える苗木を育てる「緑のバトン運動」に取り組んでいる。

また、文化祭では生徒会企画で被災地へ義捐金チャリティーを行っている。今年度は、蛇口からジュース企画を行った。



被災地からお礼状



蛇口からジュース



緑のバトン運動

高校生にとっては、被災地支援を通して、自分たちに「何ができるのか」と考えるいい機会となった。

ボランティア活動は、社会生活の中で、様々な人々と触れ合いながら「人間形成」をすることのできる有意義な活動だと思う。人々の笑顔、感謝という無形のものから得られる達成感を持つことが大切だと考えている。



愛媛県立新居浜南高等学校

〒792-0836

愛媛県新居浜市篠場町 1-32

TEL 0897-43-6191

FAX 0897-44-7447

昭和 25 年愛媛県立新居浜西高等学校中萩分校として開校。

昭和 39 年愛媛県立新居浜南高校設立。平成 8 年普通科募集停止、総合学科新設

個性豊かで広い視野をもち、心身ともに健全な人間を育成することを目標とする。個性や適性に合った科目を履修し、高齢化・情報化・国際社会化された社会に対応できる主体的な学びや個性を磨いて自己実現できる態度を育み、地域と結びついた教育活動を推進して社会貢献する態度を育成する。

学級数：9 生徒数 355 総合学科（人文科学系・自然科学系・福祉サービス系・国際教養系・情報系
スポーツ科学系）

より積極的に、活かしたボランティアを

VYS 部の活動（36 名）

児童センターや福祉施設でのイベントの手伝いや募金活動を行っている。異年齢の人たちとの交流でコミュニケーション能力が向上し思いやりの心が育まれた。

福祉サービス系

VYS 部と重複しているところは多いが、将来のための実践の場として、児童センターや福祉施設を訪ねることが多い。

家庭クラブ

地域の民話読み聞かせ団体「民話の里すみの」と協力して、年 1 回紙芝居を制作し、地域の小学校にて、民話の伝承活動をしている。新居浜地方の民話のもとより、香川県の民話や平家物語、今年は広田村へ出向いて行って話を聞く。校内でも興味を持ってくれる生徒が増えることを願っている。



小学生に絵本の読み聞かせ

ユネスコ部（8 名）

2011 年、情報科学部からユネスコ部へ名称変更。

別子銅山の歴史、残された近代化産業遺産を調べ、別子銅山の観光ガイドをしている。メディアで紹介され、数多くの賞を受賞した。ガイドブックも作成、別子銅山を多くの人に知ってもらい、町づくりに役立っている。近年、新居浜市内の小学校が別子銅山に遠足、観光ガイドの依頼がたくさん来るので、8 名がフル回転で活躍している。

異年齢の集団と接することによって、学ぶことがたくさんある。自分が必要とされているという実感を得ることができて、ボランティア活動が将来へ道を広げてくれると信じている。



ユネスコ部 ペルーへ行く



愛媛県立新居浜工業高等学校

〒792-0004

愛媛県新居浜市北新町 8-1

TEL 0897-37-2029

FAX 0897-37-6440

昭和 12 年 4 月愛媛県立新居農業学校に乙種機械科を併置し、愛媛県立新居農工学校と改称、昭和 23 年 4 月学制改革に伴い愛媛県立新居浜工業高等学校となる。

新居浜市及び周辺市において唯一の工業高校であるため、四国中央市や西条市からも通学する。専門性のある科目を履修し技術者として社会に出る生徒が多い。

ものづくりをとおして高い専門性を身に付けさせるとともに、豊かな人間性を備えたたくましく生きる生徒を育成することを目標としている。

学級数：15 生徒数：504 機械科・電子機械科・電気科・情報電子科・環境科学科

専門性を生かして空飛ぶ車椅子活動



平成 16 年、新居浜市の立川地区で台風 16 号が猛威を振るった。そのとき災害復旧ボランティアをしたのが始まりで、以後、1 年生が毎年台風シーズン前に立川地区を訪問し、急斜面の水路の清掃や林道の泥や草木などのごみを除去している。地域の人の要望も多く「必要とされている、役に立っている」と感じている生徒も多い。

また、生徒会活動の一環として福祉委員会が、児童センターで催しの準備や運営、片づけなどを手伝っている。

工業高校ならではの特色ある活動は、VYS 部の空飛ぶ車いす活動である。廃棄処分されるはずの古い車いすを譲り受け、修理・再生して、車いすの不足している地域の福祉団体や韓国に寄贈している。

車いすを必要としている多くの人の役に立ち、自分の持っている技術を活かしてのボランティアであるため、とてもやりがいがある活動である。また、車いすの必要な福祉施設や韓国等には生徒が持っていくことにしている。

利用者からの声に直接耳を傾けることができるとともに、高校生として高齢者・障害者とふれあういい機会になっている。

韓国へ運ぶ時は運搬費がかからないよう、修学旅行のときに車いすを運ぶなどして、工夫している。

高校生が積極的にボランティアに参加することによって、メディアに取り上げられ、多くの人に知ってもらえる活動となり、車椅子を修理することによって、社会に役に立っていることを知る。お礼の言葉や励ましの言葉は、将来への礎となるだろう。

今後、この活動を本校だけではなく、県下の工業高校や地元の中学校・高校へも広げていきたいと考えている。





愛媛県立新居浜商業高等学校

〒792-0821

愛媛県新居浜市瀬戸町 2-16

TEL 0897-43-6736

FAX 0897-40-3383

昭和 35 年 4 月 旧県立農村建設青年隊舎を校舎とし開校する。

輝く自分をみつけ、地域に愛され地域に尽くすことを目標にかかげ、確かな学力と豊かな心をはぐくむ教育に努力を重ねている。

昭和 43 年から実施されている精神的活動として、朝は「決意の黙」1 日の終わりは「反省の黙」と呼び、姿勢を正して静かに目を閉じ 1 分間黙想、本校の伝統として受け継がれている。

学級数：12 生徒数：408 商業科・情報ビジネス科

社会人となるための学びの場として

活動は、地域から学校へ募集依頼があり、全校生徒に呼びかけるとい形がほとんどである。

福祉関係に進路を決めている生徒は、地域の児童センターでの「夕涼み会」や「こどものつどい」での運営補助や、近隣の新田保育園で行われる親子の集い「ひまわりの集い」に参加して、1 日保育園児と交流をする。

また、新居浜市内の介護施設で 2 泊 3 日のボランティアに参加しているが、インターンシップの役割も果たしており生徒にとっては意義のある活動となっている。

生徒は最初から積極的にはいかないが、活動の回数が増えるにつれ自分から声をかけ、周りを見て行動できるようになった。

新居浜市主催の「笑顔甲子園」へは全校生徒の中から希望者が運営補助で参加する。運営スタッフで参加することでイベントで遊ぶ楽しさより、裏方をする大切さを知ることができる。仕事に対する考え方もかわってくる。



ボランティア活動は、進路について学びの場となるだけではなく、異年齢の人とかかわることで、コミュニケーション能力が育ち、他者の気持ちを考える心の教育につながっている。

卒業後、すぐに就職する生徒が 7 割を占める本校では、ボランティア活動を通して、社会人としてのスキルを学んでほしいと考えている。



愛媛県立西条高等学校

〒793-8509

愛媛県西条市明屋敷 234 番地

TEL 0897-56-2030

FAX 0897-56-2059

明治 29 年、愛媛県尋常中学校東予分校として創立。

昭和 30 年、愛媛県西条高等学校と改称。

自ら学び、自ら考える力の育成、心身ともに健全な生徒の育成、特別活動の充実と情操教育の推進を指導目標に、質の高い文武両道を目指して、自ら考え、たくましく生きる力を培うことに重点をおいている。

学級数：28 生徒数：929 普通科・商業科・定時制 (H25.5.1 現在)

お堀の中に佇む学校として清掃活動

「地域共生プロジェクト」の一環で、幼稚園訪問や清掃奉仕活動、「クリーンえひめ」の活動として地域清掃を実施している。

部活動生徒や生徒会役員が、毎朝始業前に大手門（正門）やお堀周辺を清掃している。西条高校は、「西条祭り」の会場にもなるので、祭りの前後にも 1 年生全員と生徒会、部活の生徒等有志で清掃している。地域の方々にも、学校の方から「一緒に清掃しましょう」と呼びかけているが、積極的に参加してくれる人が少なく、学校からどのように地域へ呼びかけていくかは今後の課題である。

JRC 部（Junior Red Cross 青少年赤十字）では、毎夏、市内の老人福祉施設と交流会をしている。事前に計画し、入念に準備して当日を迎える。入居者の方も、毎年、この訪問を心待ちにしてくださっているようだ。



お堀周辺、祭り翌朝の清掃風景



福祉センターにて



老人福祉施設にて

生徒も、「楽しんでくれてとても嬉しかった」「お年寄りに逆に癒された」「来年もぜひ来たい」という感想だった。

また、西条市の福祉センターにて、車いすの講習会を受け、文化祭で「車いす体験」のブースをつくった。そこで全校生徒に呼びかけ、実際に体験してもらって、障害のある方への配慮等レクチャーした。

毎年、障害者のワークキャンプ等にも参加している。

高校生にとっては、ボランティア経験は必要だと思うが、校外からの募集の要請が多くて困ることもある。学生の本業である勉強や部活動、各種の模試試験に支障が出ることを心配してお断りすることもあるが、できる限り活動を支援していきたい。



愛媛県立西条農業高等学校

〒793-0035

愛媛県西条市福武甲 2093 番地

TEL 0897-56-3611

FAX 0897-56-3613

大正7年 文部省令より設立認可

大正8年 愛媛県立西条農業学校開校式

人権を尊重し、個性と能力を伸ばす教育活動を展開する中で、「生きる力」を育て、知・徳・体の調和のとれた個性豊かな人材の育成に努める。また、各学科の学習を通して専門的な知識・技能を習得し、質実として勤労を愛する生徒を育み、地域社会に貢献することを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：299 食農科学科・環境工学科・生活デザイン科

おい。千町の棚田にいくよ！

平成17年、棚田が全国的なブームとなり、各地で棚田活動が実施されるようになったことと、千町地区の人口減や耕作放棄地が目立つようになったのを見て活動が始まった。当時は千町地区の広い棚田を借りて耕作し、蕎麦や米の栽培やコスモスの種を蒔いたり、うっそうと茂った竹林を伐採し竹炭を作り配ったりしていた。

現在は、40アールほどの棚田を13枚借りて、道路沿いの方では米を、山の中腹にあるは蕎麦を栽培している。棚田の役割、環境保全、先人の知恵を学ぶことで、元気なふるさと作りに貢献したい。

以前は200戸あった千町地区の集落だったが、今は40人ほど、70歳以上の高齢者が多い。西条市内まで20分の場所、兼業農家がほとんどであったが、管理の難しさから、棚田を放棄してしまった人は町に住むようになった。棚田は傾斜もきつく、農道は狭いところが多いので、高齢者だけではとても作れない。

そばの栽培は年2回ほどする。棚田にいくたびに、全校で希望者を募って、だいたい10名~30名の生徒が参加する。毎回、メンバーは違うが、管理しているのはものづくり部の生徒たちである。

4月の収穫のときには、地元の高齢者とボランティアの人（平成17年に市の広報でボランティアを募った、そのときの名残りの人）、生徒で会食をする。始めた頃は、吹奏楽部が演奏してくれたこともあった。



いつもは、静かな場所であるが、高齢者は高校生が来ると、にぎやかになると喜んでくれる。

食農科学科は棚田を耕し米の栽培をしている。また、環境工学科の生徒は測量をして石垣をつくり、蕎麦の栽培をするなど、専門分野の学習が活きている。

地域のことを知らない生徒に、このような活動から生まれ育った町を好きになってもらえればと思う。

また、家庭クラブは、老人ホームを訪問して掃除や庭木の剪定、イベント補助や高齢者との交流を20~30年継続して活動している。

社会事業に参加することで自分を見つめることができ、ボランティアをすることで自分作りにつながると信じている。



愛媛県立小松高等学校

〒799-1101

愛媛県西条市小松町新屋敷乙 42 番 1

TEL 0898-72-2731

FAX 0898-72-3669

明治 40 年 小松町立実用女学校開校

昭和 24 年 愛媛県立小松高等学校と改称

篤敬・勉学・鍛錬を校訓に、国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国家社会に寄与する徳・知・体の調和のとれたたくましく生きる人間を育成することを教育方針とする。

学級数：12 生徒数：442 普通科・ライフデザイン科

ボランティアに興味のある生徒を増やしたい

昨年、新居浜イオンで開催されるハロウィンカーニバル等のイベントスタッフとしての参加や、老人保健施設リハクリネにて夏祭りの際には、食事介助や車いす介助をして、高齢者のそばによりそい交流を図っている。将来、介護福祉の仕事を目指している生徒や、子どもや高齢者が好き、人の役に立ちたいという気持ちから、自主的に参加している生徒が多い。

例年、大洲青少年ふれあいの家で開かれる 1泊2日のボランティアリーダー研修には、今年度初めて、3人の生徒が参加した。他校の生徒も一緒になっての活動で、生徒はボランティア活動に対して積極的になって帰って来るなど、意欲の向上が見られた。

家庭クラブでは、年間を通じて、ワクチンになるペットボトルのキャップの回収やユニセフに送るために毎月1日に「1円募金」を実施している。

ボランティア活動は、異世代やボランティア同士の交流をすることでたくさんのことを学び、そのことによって、生徒の自己肯定感を伸ばし、コミュニケーション能力を高めることにつながる。今後もボランティアの機会があれば、時期とは関係なく、生徒に提供していきたいと考えている。

しかし、ボランティアには興味があるが、「時間がない、合わない」という生徒が多いのも現状である。部活に所属していない生徒も増えてきているので、依頼があれば、呼びかけに何らかの工夫をしたりして、「とにかくまず参加」することを促し、自らボランティアに参加したいと感じる生徒を増やしたいと思う。





愛媛県立東予高等学校

〒799-1371

愛媛県西条市周布 650 番地

TEL 0898-64-2119

FAX 0898-64-4112

昭和 37 年 愛媛県立壬生川工業高等学校として設立

昭和 48 年 愛媛県立東予工業高等学校に改称

調和のとれた人格の完成を目指し、国家社会の有為な形成者となるにふさわしい資質を養い、社会の変化に主体的に対応できる、創造的で、心豊かな人間の育成を期することを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：244 機械科・電子システム科・建設工学科

ものづくりは人づくり

社会に出て、専門分野で活躍できる人材を育てている学校であるため、専門性を活かしたボランティア活動に取り組んでいる。

形のできているものを準備して、小学生を対象にした木工教室を開催したり、公民館からの依頼で、棚やプランタ、LED を使ったインテリア、文鎮等の製作を、生徒が中心になって地域の子どもたちに教えたりしている。出来上がった物を持って帰ることができるので、大変好評である。

また、西条市から、幼稚園に防災シェルターを作ってほしいと依頼があり、パーツを校内で作り、幼稚園で組み立てている。年々件数は増えており、生徒は忙しい中、園児を喜ばそうと、奮闘している。

授業の中では、地域の匠を講師としてお招きしてその技を披露していただき、一緒にものを作っている。建築工学科の実習で瓦職人の方に来校していただいたときは校内にたくさんのオブジェを製作した。正確に積み上げた瓦のそれは圧巻である。



その他に、生徒会活動として地域からイベント補助の依頼、全校生徒を対象にした清掃活動等の活動をしている。

生徒は、地域から感謝の言葉をいただいて、期待されていると感じ、社会貢献について考えることのできるよい機会にもなっている。学習や部活で忙しい中での活動なのでたいへんではあるが、いい体験活動ができています。

しかし、年々、依頼も多くなってきているので、その分負担も増えている。活動自体には意味のあるものなので、継続していきたいが、どのように工夫していくかが今後の課題である。



愛媛県立丹原高等学校

〒799-1371

愛媛県西条市丹原願連寺 163

TEL 0898-68-7325

FAX 0898-68-0675

明治 34 年 周桑郡立農業補習学校創立

昭和 24 年 高校再編成により愛媛立丹原高等学校となる

「愛顔（えがお）あふれる丹原高校」を目指して、「共に創ろう誇れる丹原高校」という教育目標の下、「勉強に部活動に気力」を重点努力目標としている。自ら学ぶ「やる気」と最後まで諦めない「根気」心豊かでいつも明るい「元気」を大切に、何事にも積極的に取り組む生徒の育成に努める。

学級数：12 生徒数：411 普通科・園芸科学科

生徒が講師となって農業講習会を開催

「年間ボランティア活動参加者延べ420人以上。3年間で1回以上ボランティア活動に参加」を目標としている。主な活動としては、農業クラブの活動、地域からの要請での活動、部活動単位の活動がある。

農業クラブ（園芸科学科）は、年に数回、要請があれば、地域へ寄せ植え講習会に行く。講師は生徒がする。受講者は専門の高校生が教えてくれることで大変喜んでもらえる。また、近隣の山へ放置竹林の整備に行く。伐採した竹で、簾や箒を中学生と一緒に作り、校内美化に活用している。

部活動単位の活動では、毎年12月、運動部員約50人が丹原名産のあたご柿の柿摘みの手伝いに参加している。また、美術部が地域の老人介護施設に出かけて「似顔絵ボランティア」をしている。似顔絵を描きながらの会話とその作品をプレゼントするため、高齢者に好評である。音楽部も介護施設を訪問し演奏をしている。

西条市や保護者からの依頼もあり、夏祭りの手伝い、花火大会の後片付けやスポーツ大会の補助役員なども、生徒会役員や全校生徒に呼びかけ希望者を募っている。



寄せ植え講習会

地域の高齢化が進み、高校生の力が必要とされている。その中で、生徒、教職員、地域の方々が、一つの目標を持って活動することにより、地域の応援や支援を体感することができる。



放置竹林伐採後簾を作る

また、ボランティア体験を通して、自己の目標や進路決定につながっている。生徒が講師をすることによって、「学ぶ」と「指導」することの違いを知り、生徒の意識の高揚を高めることもできた。就職を希望する生徒のほとんどは地元採用である。地域を知り地域とともに活動することによって、社会に出た後も自信を持って活躍してくれると信じている。



愛媛県立今治西高等学校

〒794-0055

愛媛県今治市中日吉町3丁目5番47号

TEL 0898-32-5030

FAX 0898-32-3150

明治34年 愛媛県立西条中学校今治分校として越智郡日吉村大字蔵敷に設立認可される。

明治38年 独立して愛媛県立今治中学校と改称する。

昭和24年 高等学校再編成により愛媛県立今治西高等学校として開校

徳・知・体の調和のとれた健全な心身の発達を目指し、個性豊かな人間の育成を教育方針として、自ら学び自ら考える力と豊かな人間性を身に付け、たくましく生きる生徒の育成を目標とする。

学級数:24 生徒数:942 普通科

ボランティア活動の幅を広げる

インターアクト部が中心となって、校内でユニセフの募金活動・清掃活動、ロータリークラブからの要請で市民の森清掃、今治城周辺の清掃、NPO 法人からの依頼で阪神大震災の日、防災フェスタへの参加等行っている。

また、市役所からの依頼でおんまく祭での『拾えば町がきれいになる運動』への参加、福祉系の生徒がする、介護福祉施設のイベントスタッフや介助、児童センターのイベント手伝い、障害を持った方々のプールでの介助等がある。

生徒会は、主に、学校行事のサポート・運営・準備をしている。

地域の方々からは、公共の場所がきれいになったとお褒めの言葉をいただいたり、感謝してもらったりしている。今後は、さらに、ボランティア活動の幅を広げていきたいと思う。

ボランティア活動は、社会で役に立っているという達成感や満足感を味わうよい機会である。生徒は、地域活動に参加し、自分たちの町を好きになり、やがてはコミュニティを背負っていく存在になってほしい。

中には活動に消極的な生徒もいるので、みんなが活発に活動できる雰囲気になっていけばいいと考えている。



ロータリークラブサマーキャンプ



清掃活動



愛媛県立今治南高等学校

〒794-0015

愛媛県今治市常盤町7丁目2番17号

TEL 0898-22-0017

FAX 0898-25-6945

大正15年 越智中学校（旧制）として開校。

昭和23年愛媛県立越智高等学校に改称 昭和24年愛媛県立今治南高等学校に改称。

「共に創ろう誇れる南高」をスローガンに、人格の向上を目指し、学ぶ喜びを感じ、社会奉仕をする生徒を育成することを重点目標とする。シンボルの時計塔は、初代校長の母校である札幌農学校（現北大）の演武場（札幌時計台）に起源があり、パイオニア精神を当校にも受け継いでもらいたいとの願いを込めて設置された。

学級数:21 生徒数:783 普通科・園芸クリエイト科

生徒会長からの提言

毎月1回、第3水曜日の7:00~8:00
学校前の常盤通りを清掃している。題して

「南校 Road 清掃」。自由参加。

生徒会長の話。今の南高生は先生方に頼りすぎ

る傾向がある。指示を待っているだけ、指示以外に

気付いたことを見るだけになったりしている。そんな自分たちを

生徒会が中心となって活動を企画したり、行動に移したりして自らを成長させようと考えた。

ボランティアは、人の役に立ち、地域に貢献ができる活動であり、これから社会の一員となるひとりとしてたいへん意義があると感じている。それは、自分自身が気付き考え実行できる生徒に成長できること、協調性や愛高心を育ませることができること、そして、清掃活動を通じて、今治市をきれいにしたいという気持ちを、地域に理解してもらうことができるからである。

やりたい、やった方がいいと思ってはいるが、それを実行に移すまでいかない人や、結果や評価を短期間で求めてしまう人に、どのようにして参加してもらうか、また、やろうと思ったときとボランティア活動の時期がずれてしまうことや活動の内容が周知されていないことがあるなど課題は多いので、解決に向けて工夫していきたい。



他の活動として、地域の文化祭にて、模擬店を出したり餅つきをしたり、終了後の清掃もしている。おんまぐグリーン活動、近見山清掃活動にも参加している。

今後は、清掃活動にとどまらずもっと、いろいろなボランティア活動をして地域貢献をしていきたいと考えている。



愛媛県立今治北高等学校

〒794-0052

愛媛県今治市宮下町2丁目2番14号

TEL 0898-32-2200

FAX 0898-25-6780

明治23年 今治町立今治高等女学校として創立

昭和24年 愛媛県立今治北高校と改称

志を高く持ち、自ら学び考え行動する生徒の育成を目指して、ワンランクアップの自分づくり、学習習慣の確立と進路実現、特別活動の充実と個性の伸長、地域に開かれた信頼される学校づくりに取り組んでいる。

学級数：23 生徒数：911 普通科・商業科

体験活動に積極的な態度で取り組む

ボランティアは進路教育の一環として捉えているので、地域から案内が届くと募集を全校に呼びかけるようにしている。

全校一斉に取り組んでいる事業としては、1年生による歩道のゴミ拾いや除草の清掃活動がある。地域からの募集は小学生と高校生のサマーカーニバル in 別宮、鬼子母神大祭準備ボランティア、イオンでの献血呼びかけ等、さらに、ヤングボランティアの事業の一つシャッターボランティアを来島で行っている。

新しいことにも「行ってみよう経験してみよう」という意欲的な生徒が比較的多い。

さまざまな活動の案内をすると、参加を希望する生徒が多数集まるため、学校全体のボランティア参加状況が良くなってきている。

生徒にとっては見識が広がっていくようだ。看護系の生徒は施設へのボランティアに行くことによって進路について深く考えることが出来るし、異年齢の方々と接することで、人とのコミュニケーションをとることの難しさや大切さを体感するいい機会となっている。

依頼が来ると、各クラスに案内等配布し、参加人数等のとりまとめは担任にお願いしている。

いつでも連絡がとれるようにはしているが、活動場所へは教員の引率はなく、子どもたちだけで行かせることにしている。

今後は、既に参加したボランティア活動への継続的な呼びかけを行うと同時に、それ以外の活動についても積極的に参加を呼び掛ける予定である。



来島にてシャッターボランティア



柑太パークボランティア

利害優先の思考から奉仕の精神の醸成を目指してボランティア活動の参加を推進し、さらには若者が地域の方々と交流することが必要だろう。

ボランティアはみんなで行っていくもの、教師は、ボランティアに対してより高い意識を持ち、その上で生徒を指導して行動しなければならないと考える。



愛媛県立今治北高等学校

大三島分校

〒794-1304

愛媛県今治市大三島町宮浦 5297 番地 2

TEL 0897-82-0030

FAX 0897-82-0025

昭和 23 年 愛媛県立大三島高等学校並びに瀬戸崎分校設立認可

昭和 27 年 新校舎 愛媛県越智郡大三島町大字宮浦 1 番耕地 4713 番地に落成

平成 17 年 愛媛県立今治北高等学校大三島分校と名称変更

自律・創造・敬愛を校訓とし、地域と生徒の実態に即した教育を推進し、情報化・国際化社会を生きるにふさわしい自己教育力を身に付けさせ、心身ともに健康で個性豊かな人間を育成する。

学級数：3 生徒数：50 普通科

大三島のイイところマップ作成

「日本一美しい島・大三島で暮らすプロジェクト」の活動で大三島に来られていた、東京の NPO これからの建築を考える伊東建築塾の方々と生徒会が中心となって調査、協力し、宮浦港から大山祇神社に続く参道をイラストマップとして復元し文化祭等で展示した。

また、商業部が去年作成したマップを基に、大三島の「イイところマップ」を作成、地域の飲食店および図書館に置いている。置いていただいた店舗からは、追加してもらいたいと依頼されることも多い。

鶴姫祭りの鶴姫祭りのお手伝いにも積極的に参加した。

大三島分校は、宮浦地区と上浦地区の中学生が進学する。上浦地区から通っている生徒にとっては、マップの活動が新鮮に感じたようである。地域の方と話す機会が多くなり、イベントなどの企画にも参加することができて自主性が強まった。また、大三島の活性化に向けて自分たちになにができるかを深く考えるようになった。



←伊東建築塾新地見学

→鶴姫まつり
鶴姫とみしま君



大三島分校ゆるきゃら
みしま君・芋子

イベントに参加することで、実行委員の方々からは「活気がでた」と言われ、また、ふれあう機会が増えることで、高校生の存在一若い力を感じてもらえることとなった。

また、他県から3年間の期間限定で来られている「地域おこし協力隊」の方々と一緒に大三島を活性化する活動に協力している。

これらの活動は、地域に1つの少人数の学校であったこと、日ごろから地域とのつながりができていたこと、まずは、躊躇しないでチャレンジしていったことで前に向かって進んで行ったと思う。今後も、「イイところマップ」はリサーチを重ねて改編し、大三島参道イラストマップはガイドブックに改編してそれを利用してボランティアガイドを行ってみたい。





愛媛県立今治工業高等学校

〒794-0822

愛媛県今治市川南町1丁目1番36号

TEL 0898-22-0342

FAX 0898-22-6089

昭和17年 今治市立工業学校として創立。機械科・工業化学科の2科を設置

昭和24年 今治西高等学校として、今治第一高等学校と合併、開校式挙行

昭和27年 今治西高等学校より分離独立し、愛媛県立今治工業高等学校と改称

「ものづくりから人づくりへ」を目標に、モノ作りを通じた豊かな人間形成の推進、分かる授業の展開と基礎基本の定着、基本的生活習慣の確立と自立心の育成、部活動の充実と個性豊かな人間の育成、各種資格習得の奨励とキャリア教育の推進力、地域社会へのボランティア活動の推進を目指している。

学級数：18 生徒数：625 機械科・電気科・環境科学科・電子機械科・情報技術科・線維デザイン科

国際ロータリークラブとの交流

インターアクト部は、主に今治南国際ロータリークラブとともに観月会やアイランド今治、防災フェスティバル等のイベントの手伝いや募金活動、公園清掃活動を行っている。ロータリークラブの会員は、地元の名士が多く、日ごろ話す機会のない方々と交流をもつことができるので、活きたキャリア教育だと思っている。また、余島の少年少女キャンプに参加して、他県の人とも交流するなど、学校だけではできないこともできている。

繊維デザイン科の生徒は、東日本大震災のときは、宮城県へタオルをデザインして送った。電子機械科は出前授業を行い、小学生にロボット体験をしてもらった。

文化祭は、地域へ公開している。Tシャツ作りやハンドクリーム作りなど、地域の方々とふれあい、アピールできるような工夫をしている。

他には、特別養護老人ホームのイベント手伝い、蒼社川清掃、他校の生徒とともに近見山清掃、今治駅での作品展示等の活動をしている。

生徒たちは、ボランティアと言う意識はうすく、自ら自然体で取り組んでいる様子である。

今後も、伝統的に引き継がれている活動については継続して、地域からの依頼については、管理職と精査して生徒の希望があれば参加する予定である。

ボランティア活動は心豊かな生徒を育成するためには必要だと思うが、検定試験や部活動が忙しく、時間が確保できにくい。また、積極的に参加する生徒も少ないので、将来的に、ボランティア活動を学習評価に取り組むことができればと思う。



表彰
インターアクト





愛媛県立伯方高等学校

〒794-2301

愛媛県今治市伯方町有津甲 2358 番地

TEL 0897-72-0034

FAX 0897-72-1664

昭和 23 年 愛媛県立伯方高等学校（定時制独立校）として創立

昭和 29 年 全日制に切り替え

忍耐…風雪の道を歩み自己をきたえ、真剣…探求の道を歩み英知を磨き、希望…理想をかかげ未来をひらくことを校訓とし、自らを律し、自ら学び鍛える生徒を育成する。

学級数：6 生徒数：131 普通科

明日に輝けボランティア同好会

過疎化・高齢化の進む伯方島では、高校生のボランティア活動の機会はとても多い。多くの生徒が地元の児童館や老人介護福祉施設のどのイベントに参加している。また、しまなみ海道を走破する『しまなみ海道 100km ウルトラ遠足』のスタッフ補助としての活動や、11 月 10 日の文化祭では、台風 26 号の影響により土砂流で被災した東京都伊豆大島へ募金活動を実施、同じ“島”に住む島民からも賛同を得ることができた。

そのような中で、2 年生 2 名が発起人となり、今年度ボランティア同好会を立ち上げた。「自分になにができるか」を考えて校内 42 か所のトイレのペーパーホルダー製作・設置、古着を回収して布ぞうり製作・配布を行った。

冬休みには小中学生、保護者を対象とした星空観察を開催することも思案中である。



生徒会とボランティア同好会の積極的な呼びかけに、ボランティア参加人数は前年に比べ増えてきている。

ボランティア同好会の設立・運営にかかわり、ボランティア参加の呼びかけを行う中で、生徒が自分の居場所を見つけることができたこと、役割を得たことが、自己有用感を高める結果につながったと考えている。

2014 年には、愛媛県と広島県が共同開催する『瀬戸内しまのわ 2014』で、1 万人規模の参加が予想されるサイクリングの世界大会が予定されている。また、2017 年の愛媛国体等、多くの地域からの観光客が来島することが見込まれている。

伯方島が、ボランティア・地域交流のネットワークの中心になることを目指す中で、伯方高校がボランティア同好会を中心として、さらなる力を発揮できることを期待する。



愛媛県立弓削高等学校

〒794-2505

愛媛県越智郡上島町弓削明神 305 番地

TEL 0897-77-2021

FAX 0897-77-3844

昭和 23 年 愛媛県立弓削高等学校定時制課程普通科及び岩城分校設立

昭和 32 年 愛媛県今治西高等学校弓削分校全日制課程普通科を併設

昭和 33 年 今治西高等学校から分離独立、愛媛県立弓削高等学校全日制課程となる。

勉学・敬愛・創造を校訓に徳・知・体のとれた、人間性豊かで、心身共にたくましい人間の育成を目指す。

学級数：3 生徒数：51 普通科

地域の中であたたかく共に歩む

地域からの依頼があれば、すべて、各クラスに募集するようにしている。デイサービス介護施設でのイベントのお手伝いや養護施設の訪問には全校生徒の 6~7 割もの生徒が積極的に参加する。

上島町では、夏休みを利用して「島おこし協力隊」を中心に「かわうそキャンプ」が開催される。これは、小 4~中 3 までの子どもを対象に 2 泊 3 日で行われるもので、本校の生徒もボランティアスタッフとして参加している。

また、家庭クラブで特別養護老人ホーム「海光園」を年数回訪問している。これは、生徒が自主的に参加するもので、訪問時の指導は施設職員が行ってくれる。たとえば、介護の手伝いの際に問題が起きても、職員の方がていねいにその対処方法を教えてくれるので、参加した生徒たちは介護における注意点や要領を体験的に学び、介護を身近に感じることができる。さらに、地元の特定非営利活動法人主催のイベント「ふくふく祭」のお手伝いにも毎年参加している。狭い地域なので、利用者のご老人とは相識の間柄であることもめずらしくはない。

生徒は地域の中で温かく見守られ、地域の人たちと共に歩みながら成長していくことができるので、故郷を思う心が育っている。卒業後も上島町に戻ってくる生徒が少なくない。

上島町は少子高齢化が急速に進行している地域であることから、高校生に対するボランティア依頼が多い。生徒にとっては、学校では学ぶことのできない多くのことを学ぶためのいい機会となっている。

地元の人たちは、高校生が地域の将来を背負ってくれるであろう人材として期待し、生徒たちも地域の期待を肌で感じながら地域を愛する活動に参加している。

本校は現在、生徒数が減少の一途をたどっており、存続が現実的な問題となっている。地域の人材育成という重要な役割を担う本校は、地域に貢献できるボランティア活動を通じて、地域とのつながりをより密接なものとし、その存在感をますます高めるように努力していきたい。



ふくふく祭



かわうそキャンプ



愛媛県立北条高等学校

〒799-2493

愛媛県松山市北条辻 600 番地 1

TEL 089-993-0333

FAX 089-993-0426

昭和 22 年 北条町外六か村組合立風早青年学校を愛媛県立松山農業学校と改称
昭和 23 年 学制改革により県立松山農業高等学校となる
昭和 28 年 松山北高等学校北条分校を設置 昭和 39 年 北条分校が愛媛県立北条高等学校となる
自律・創造・敬愛を校訓として、総合学科の特色を活かし、生徒の「自分探しの旅」を支援する教育を推進することを教育方針とする。

学級数：19 生徒数 697 総合学科（人文科学・自然科学・国際教養・スポーツ科学・情報ビジネス
生活科学・生活福祉・芸術）

愛媛マラソンへボランティア参加

毎年 2 月に開催される愛媛マラソンは、北条地区を折り返し地点とするため、ボランティアスタッフとして運動部の生徒を中心に教職員も含み、100 名ほどが参加する。地域貢献とともに、生徒にとっても奉仕の精神、社会性を育成することができる。

JRC 部は、活動の拠点が福祉施設でイベント等の補助や交流を行っているが、介護福祉士を目指す生徒の多い生活福祉系列の生徒で占められている。訪問先の先輩と同じところに就職する生徒もいる。

学校全体としては、学校行事として 1 学期に、国道沿い、海岸沿いの清掃活動がある。また、運動部および生徒会は JR 北条駅の清掃を、長期の休みを利用して行っている。

生徒会独自の活動として世界の子どもたちにワクチンを届けることができるよう、エコキャップの回収をしている。



国道沿いの清掃活動



愛媛マラソン

また、個人ではヤングボランティアセンターに登録している生徒が多く、東北へボランティアに行った生徒もいる。現実を知ることができたので、話を聞くだけではなく、いろいろな人に伝え、自分にできることを支援したいという。

ボランティア活動をすることによって、積極的になり、相手を認める気持ちや思いやりの心が育つようになった。また、相手からの感謝の言葉をいただいたり、「やってよかった」と達成感を感じたりして心が成長したように思う。

なにもしない生徒が増えている。その生徒たちをボランティアに参加させることのできる工夫をしていきたい。



愛媛県立松山東高等学校

〒790-8521

愛媛県松山市持田町2丁目2番12号

TEL 089-943-0187

FAX 089-934-5766

文政11年 藩校・明教館として設立

明治11年 愛媛県立松山中学校となる。昭和24年 愛媛県立東高等学校として出発。

『より高く、より広く、より深く、そしてより豊かに』をモットーに、輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるリーダーの育成を目指す。

学級数：27 生徒数：1076 普通科

小さな活動から…がんばっていきまっしょい

学校として単独の組織を作ってボランティア活動はしていないが、毎年、ヤングボランティアセンターや個別でボランティア活動をした生徒に「三好志奈ボランティア賞」が贈られる。

学校を挙げて「何をしたか」ではなく、普段から個人の範囲内で「今の自分にできること」、小さな活動をしていくことが望ましい。教育活動を通して、生徒が社会的に弱い立場に置かれた人の現状を知り、困っている人に自分にできることをさせてもらいたいという気持ちを育てることがボランティアに繋がると考えている。

委員会活動では、家庭クラブが保育園や老人ホームを訪問、保健委員会が文化祭で献血の呼びかけ、人権委員会が手話講座を開講し、手話スピーチコンテストにも出場する。

また、「格差社会を考える～ホームレス支援の活動を通して～」と題して、人権教育講演会を実施した。無償で夜回りをしているという講演者の話を聞いた生徒は社会的弱者の人たちを社会全体で見守ることの大切さに気付いたようだ。



手話交流会風景



来年、香川県の離島・大島の国立療養所青松園へフィールドワークに行く計画を立てている。ハンセン氏病療養所のあるところである。社会問題に興味のある人権委員が参加する。

ボランティアを組織することは難しい。何をしたいかわからないということもある。プロジェクトを組んでもそのことがらが落ち着いたら消えていく。

ボランティアの評価は自己評価が基本だと考える。何かがあって「助けてい」気持ちが生徒に育ち行動できればいいと思う。



梅津寺清掃



愛媛県立松山南高等学校

〒790-8521

愛媛県松山市末広町 11-1

TEL 089-941-5431

FAX 089-933-3144

明治 24 年 私立愛媛県高等女学校設立

昭和 24 年 愛媛県立松山南高等学校となる

校訓「自らを律せよ」のもと、志高く、未来を切りひらく人材を育てることを重点目標とし、豊かな教養と視野の広い生徒、心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成に努め、生徒の個性・能力を伸ばし、自己実現することを積極的に支援する。

学級数：27 生徒数：1079 普通科・理数科

自ら考え行動する力へとつなげたい

1年間を通し、「みなみみどりの日」清掃活動として、1,2年生がクラス単位で松山市駅前ロータリー付近の清掃をしている。この活動は、20年前、地域に貢献する活動の一環として始まった。継続して実施することで、ゴミの分別やポイ捨て禁止などの意識の向上につながった。

他には、生徒会が「あしなが育英会」のための街頭募金、校内では「歳末助け合い運動」の募金活動をしている。

本校の活動はクラス単位での一斉活動が多いが、これらの活動がきっかけとなり、共生する意識や社会貢献、社会的課題への自発的な活動として繋がっていく可能性があると感じている。



エコキャップ



みなみみどりの日清掃活動

参加した生徒は、力がついた、楽しかったと肯定的である。補習や部活等で忙しく、外部からのボランティアの依頼があっても参加しづらい現状だが、自分たちが考え行動する時間を確保するための環境づくりに心がけたい。また生徒への啓発を促すために、より積極的な広報活動を行っていきたいと考えている。

運動会や文化祭の学校行事の際には、生徒会が町内会や各家庭を回り、活動へのご理解とご参観の挨拶に伺っており、地域のつながりを密にしている。



愛媛県立松山南高等学校

砥部分校

〒791-2141

愛媛県伊予郡砥部町岩谷口7

TEL 089-962-4294

FAX 089-927-2964



マスコットキャラクターえこた
ゆるキャラグランプリにエントリー

昭和 23 年 愛媛県立砥部高等学校（定時制普通科）砥部中学校校舎で開校

昭和 37 年 愛媛県立松山南高等学校砥部分校となる（全日制工芸科・家政科）

昭和 45 年 家政科廃科、デザイン科単科となる

デザインの基礎となる、観察する力、表現する力、情報を発信する力を育む。

学級数：5 生徒数：136 デザイン科

大宮八幡宮へ絵馬奉納

20 年前、椿神社から依頼があつて絵馬を奉納していたが、干支が一回りしたので終了した。その後、地域の大宮八幡宮より絵馬の依頼があり、美術部の生徒が図案を考えて絵を描き、12 月末には奉納する。今年で 8 年目となる。

また、毎年 7 月に 1 回、3 班に分かれて、全校が一斉に清掃活動をする。校内と学校周辺、近隣の坪内邸の 3 か所である。坪内邸は管理者が卒業生ということもあつて清掃することになったがその縁で、本校の卒業生が毎年この邸を借りて個展を開いている。

家庭クラブが中心となって、地域の高齢者施設や児童館にイベントのお手伝いに毎年出かけているが、高齢者施設では感受性の豊かな生徒が多いため、高齢者のよき話し相手になれるようだ。また、児童館の夏のイベントでは、専門性を生かしお化け屋敷のポスターや絵を描いて喜ばれている。

校外活動では、愛媛新聞社主催のヤングクリエイター大賞に個人で応募し、広告のイラストおよびコピーで入賞した者も数名いる。

活動を通して、他人を思いやる心や地域の所属意識が高まり、特技を生かして人の役に立つことで、自信や自己肯定感が養われている。お手伝いに行った先では、優しい言葉がけができる、様々な場面で何をすればいいか考えながら積極的に動いている等、評価していただいている。

今後は、より多くの生徒が地域に出かけ、交流を深めていけるように、デザイン科としての特性を生かしたボランティア活動の幅を広げていきたい。





愛媛県立松山北高等学校

〒790-0826

愛媛県松山市文京町4番地1号

TEL 089-925-2161

FAX 089-927-2964

明治33年 北予中学校を開校する

昭和24年 学制改革により愛媛県立松山北高等学校として発足

校訓は「文・武・心」。学業と部活動を両立させ、それらの活動を通して知性を磨き、心身を鍛え、自立できる生徒、および感謝と思いやりの心を持ち共生できる生徒を育成する。

学級数：29 生徒数：1115名 普通科

本校のゆかりの地での学習と清掃活動

2年生の秋、授業時間を「城山回廊探索」に充てている。地域の方々や本校OBが案内役で、秋山好古校長居宅跡、坂の上の雲ミュージアム、萬翠荘、県庁本館、堀之内の歩兵第22連隊跡、松山城二の丸庭園、松山城を訪問する。

地域の歴史を知りその地の美化活動に、1年生は城山4登城道の清掃活動(松山城総合事務所と連携して毎月1回実施)をする。2年生は、護国神社内の城北高女殉職学徒追悼碑(学徒動員先の空襲で死去した22名の女学生のために本校同窓生が建立、高齢となった城北高女の卒業生から清掃を引き継ぐ)、万葉苑(万葉集で歌われた草木がその歌とともに栽培されている。城北高女の卒業生が清掃されていたが高齢のため、引き継ぐことになった)の清掃活動を護国神社・万葉苑保存会と連携して、7月～3月の各月1回実施している。

生徒は、自分たちの通っている高校と縁の深い地域の歴史を知ることによって清掃活動に熱心に取り組む。

地域の方々からは、定期的に清掃してもらえるのでたいへんありがたいと感謝されている。



また、野球部では、「部活動で迷惑をかけることもあるので自分たちでできることはしたい」と市民大清掃の折、学校周辺の草引き、ゴミ集め等をした。地域の方は、「町内活動が活発とはいえないので助かるし、うれしい」と感謝された。

交流活動として、1年生は2学期に小学校・施設訪問をする。小学低学年・障がい者との交流をするため、ホームルームをつかって、計画・準備をする。

地域の小学校や施設への交流を通して、感謝と思いやりの心を育むことができている。



愛媛県立松山北高等学校

中島分校

〒791-4501

愛媛県松山市中島大浦 3100 番地 1

TEL 089-997-0031

FAX 089-997-0093

昭和 23 年 県立松山農業高等学校の分校として創立

昭和 24 年 県立松山北高等学校中島分校となる

校訓は文・武・心。社会貢献できる人材の育成を指導目標とする。

本校の伝統は、開拓者精神。創立に際して、向上心に燃える若者が高等学校の設立を嘆願して叶えられた学校。校舎や校庭の工事にも生徒たちが積極的に協力、現在の基礎を築いた。

学級数：3 生徒数：58 普通科

中島を知り 中島を愛し 中島を元気づける

11 月に家庭クラブが特別養護老人ホームへ訪問し、車いす清掃をしている。生徒は、積極的に取り組み、体を動かすことをいとわない。職員からは、忙しくて手が回らないので助かっていると言われた。また、7 月の花火大会、8 月の盆踊り大会、12 月の年賀カードプレゼントなどの交流を継続して実施している。

保育園へは、VYS 同好会が土曜日の午前中を利用して年十数回方訪問し、園児と遊びを通して交流している。7 月の夕涼み会、10 月の運動会、12 月のクリスマス会にも参加し、運営等の手伝いをしている。保育園児や高齢者と触れ合うことによって新しいことを知り、生徒自身の心の成長へとつながっている。

中島の観光名物となったトライアスロン中島大会には、毎年、全校生徒の半数以上がボランティアで参加する。



右上 車いすを洗う

右下・左下 クリスマス会

今年度、商業部がご当地グルメ甲子園に“ししの里せいよ”の協力のもと、猪入りたこ焼き「いのまる」で参加した。大好評であった。コンセプトは、地域に被害を及ぼす猪を使った商品開発である。

園芸部は花を育てて、中島の沿道を飾る活動を行っている。

過疎化、高齢化などの課題を抱える地域の中で高校生ボランティア活動が地域を元気づける一助となっている。地域の人々は、若い人が少ない島なので、高校生が来てくれるだけで嬉しいと言ってくれる。また、地域の行事や人々と関わることで、生徒自身にも地域を知り地域を愛する心が育っている。ある生徒の感想「中島を元気づけるということは難しいけれど、交流をすることで中島の人たちに楽しいと思ってもらえたら、元気づけたということになるのかなと思います」。

高校時代のボランティア活動体験が、将来何らかの形で地域の課題解決に取り組む人材の育成の種となり、萌芽となってほしいと思う。



愛媛県立松山中央高等学校

〒791-1114

愛媛県松山市井門町 1220 番地

TEL 089-957-1022

FAX 089-958-5954

昭和 62 年 全日制普通科高校としてスタートする。

陽光と緑に包まれた学習環境の中で、21 世紀の国際化、情報化に対応できる人材の育成を目指している。「明日に向かい今を生きる」生徒を育てるため、豊かな人間性の育成と確かな学力の向上を重点努力目標にかかげている。

学級数 27 生徒数 1035 普通科 (2 年次よりコース別。人文系・英語系・理数系・医療看護系)

がんばれ！ボランティア部

現在、ボランティア部の部員は 3 名。活動は、県のヤングボランティアセンターが実施している読み聞かせやシャッターボランティア活動、音楽療法で老人介護施設への慰問、家庭クラブと一緒に地域の保育園で行われる夏祭り、クリスマス（この行事にはダンス部も参加しダンスを披露する）等の補助、ユニセフの募金活動および文化祭にてユニセフの展示をしている。

学校から各ホームルームにボランティアの紹介をし、そのボランティアに合った生徒に教員が声をかけているが、参加する生徒は極めて少ない。

参加した生徒は、さまざまな活動の中で自分の興味があるものを選ぶことができたので、自分の進路を明確に考えるようになった。また、かかわった人からの感謝の言葉でやりがいを感じ、つながりの大切さを感じたようである。一度活動に参加すると、再度参加したいという生徒が多い。

全校生徒の中で、ボランティアに参加する生徒は少ないが、興味をもつ生徒は少なくない。その生徒の「ボランティアをしたい」という気持ちを実際に「してみる」形に変えることができるよう、学校全体に働きかけて本校のボランティア人口を増やして行く必要がある。

家庭や学校外で人に接することで、日常とは異なった視点でものごとを感じ、また、誰かのために自ら行動することによって、新たな自分の居場所を再確認することができる。生徒が、自分の存在を自分で認めることはとても大切なことである。

ボランティア活動に第一歩を踏み出せない生徒が多い中、きっかけをどのようにつくっていくかが今後の課題だと思う。





愛媛県立松山工業高等学校

〒790-0021

愛媛県松山市真砂町 1 番地

TEL 089-931-8195

FAX 089-931-8860

明治 42 年 松山市立工業学校として松山市二番町に開校する

昭和 9 年 県立に移管、愛媛県立松山工業学校と改称

昭和 23 年 学制改革により愛媛県立松山工業高等学校と改称

自律・創造・協和を校訓に、教育基本法の精神にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する豊かな人間性と創造性を備えた実践的な技術者を育成する。

学級数：24 生徒数：約 960 機械科・電子機械科・電気科・情報電気科・工業化学科・建築科
土木科・繊維科

日常の清掃活動をこころがける

JRC 部員は線維科 1 年生 2 名。昼休みと放課後、月に 1 度校内美化活動をしている。11 月の文化祭では自主的にゴミ拾いをして分別していたが、その活動を見た他の生徒も非常に協力的であった。生徒の活動がモラルの向上にも役立っているようである。

学校の敷地内には、JRC の花壇があり季節の花を植えているが、綿の栽培も行っている。収穫した綿は線維科の実習に使われる。

平成 24 年までは、足なが街頭募金や日本赤十字のボランティアをしていたが現在は校内活動のみ。部活動や資格習得のため生徒が多忙ということもあってボランティアに時間を割くゆとりがない状態だが、今後は募金活動や校外活動も参加してみたい。

また、生徒会は献血会議（8 月県庁において開催される）に参加して、献血センターの取り組み等、今まで知らなかったことを知り、献血に対する意識が上がった。毎年文化祭には献血車が校内に入るが、今後は、献血について校内全体でアンケートをとり、質問や意見を聞いて、学校全体の取り組みとして献血を呼び掛けるつもりである。

ボランティア活動は、新たな気づきの場として有意義である。生徒の「やってみたい」という積極性に期待したいと思う。



今回参加してくれた生徒会・JRC 部のみなさん

ボランティアに関する情報が少ないので、自分から進んで行動するための一歩が出にくい。高校生向けの情報誌などを配布し、高校生が参加しやすい環境が出来ればと思う。

愛媛県全体の高校生が参加できるような、愛媛を日本にアピールできる高校生を中心とした「まちおこし」活動があれば県全体が盛り上がると思う。

ボランティアに参加することで、知識を増やすことになるし、社会にふれるきっかけになるので積極的に参加したい。

…生徒会の皆さんは高校 3 年生。すでに進路は決まっている。しっかりとした口調で目指す夢を語ってくれた。





愛媛県立松山商業高等学校

〒790-8530

愛媛県松山市旭町 71 番地

TEL 089-941-3751

FAX 089-943-8039

明治 34 年 愛媛県立商業学校を温泉郡道後村に設置することを認可される。

昭和 27 年 愛媛県立松山東高等学校より分離独立して、愛媛県立松山商業高等学校と復活改称する

校訓 「土 魂 商 才」個人の尊厳を重んじ、心理と正義を希求する人間の育成に努め、新しい職業観のもとに豊かな情操を身につけ、勤労と責任を重んずる資質を養い国家社会の有為な形成者として創造性と実践力に富む心身ともに健全な商業人の育成を教育方針とする。

学級数：27 生徒数：1071 商業科・国際経済科・流通経済科・情報ビジネス科

門前祭で活躍する

毎年 11 月初旬、大街道 3 丁目のロープウェイ街において門前祭が開催されている。その催事に多くの生徒・教員が参加しており、流通経済科の生徒を中心に、生徒たちは各店舗に分かれて販売員として活動し、吹奏楽部やバトン部の生徒たちはパレードで祭りを盛り上げている。また、経済調査部はロープウェイ街のマスコットキャラクター『たんたん』を考案し商店街の活性化にかかわっている。地元商店街と協働したこの活動から地域社会における高校生として果たすべき役割の再確認や職業観の確立といった成果をもたらしている。

家庭クラブでは年に 1 回、休日の地域の清掃活動や乳児院訪問などの活動を行っている。特に乳児院訪問は長年にわたって行われている活動で、年に 10~12 回実施されている。

また、学校行事においても、1、2 年生による石手川河川敷の清掃や 1 年生による施設（高齢者施設、幼稚園・保育園）訪問に行っている。清掃活動は夏の暑い時期に行っており、活動に消極的な生徒が多い。施設訪問においては、不安を口にする生徒もいるが、活動後には多く生徒が充実感を感じているようである。



門前祭



乳児院訪問



施設訪問

さまざまなボランティア活動を通して、周りの人たちに感謝の気持ちを持つ生徒が多く、中には進路へとつなげていく生徒もいる。全校生徒にボランティア活動をしてもらいたいと思うが、生徒数が多いことや部活動が盛んなこともあって、教員の引率を伴う活動には課題が残る。しかし、同世代との交流が中心となっている生徒が多くなっているからこそ、できるだけ異年齢の方々と交流する体験をもつことで、地域社会の一員としての自覚を持たせる必要があると考えている。



愛媛県立東温高等学校

〒791-0204

愛媛県東温市志津川 960 番地

TEL 089-964-7442

FAX 089-964-2400

昭和 23 年 県立東温高等学校定時制課程（農業科）として設立

昭和 31 年 全日制課程に移管（昼間部）

学科の特質と生徒の実態に即した特色ある教育を地域との連携を保ちながら展開させ、自ら学び、自ら考える力を育て、一人一人に「確かな学び」を獲得させる教育を実践し、公共の学びや体験活動に努め、広い視野を持って時代を拓く人間性、社会性の育成を図ることを教育方針とする。

学級数：24 生徒数：945 普通科・商業科

生徒も一緒に車イスコスモスマラソン

毎年、9月重信リバーサイドサイクリングロードにて、障害者の車イスマラソンが500m、1km、5kmのコースに分かれて開催される。本校では、全校生徒に募集をかけて、支援希望者を募る。今年度は91名の参加だった。最短距離は希望者がライフサポートコースの生徒が車イスを押したり利用者と話したりしながら回る。また、1k、5kはおもにサッカー部の生徒が支援する。利用者と一緒に参加・体験することで、福祉関係の進路を考えている生徒には自信が付き、そうでない生徒においても、日ごろ接することのない人と接することで、自らを振り返るいい機会となる。



また、地域にある特別支援学校や保育所、神社、駅周辺などの清掃活動を、毎年7月に全校一斉でクラスごとに分かれてする。

1年生の活動としては毎年、交流授業として、しげのぶ特別支援学校を訪問する。生徒は、事前に何をするかクラス全体で相談をして決める。

地域に福祉施設が多数あるので、活動に対しては積極的に参加する生徒が多い。

JRC部では、あしなが街頭募金を年2回、児童館・車イスマラソン・高齢者施設祭の補助・団体主催の行事への参加や補助などの活動をしている。

商業科の生徒は、「ビジネス実習」の授業の中で作ったクヌギの葉をいれた「東温石けん」を、全国商い甲子園へ出品し、最優秀賞を獲得した。

ボランティア活動は良くも悪くも必ず何か得るものがある。やり終わった後には感じる何かが残る。活動をさせていただくと気持ちがよくなるので、依頼があれば生徒に参加させてやりたいと思う。

すべての生徒が積極的というわけではない。地域をきれいにしようというときに、全員がそのような気持ちで行っているわけではない。活動に無関心な生徒をどう導くかが課題である。



愛媛県立上浮穴高等学校

〒791-1206

愛媛県上浮穴郡久万高原町上野尻高 486 番地

TEL 0892-21-1205

FAX 0892-21-2050

昭和 15 年 愛媛県立上浮穴農林学校 設立認可される

昭和 23 年 愛媛県立上浮穴高等学校となる。

地域の期待に応えるため、高校生として、徳・知・体の調和のある人間づくりを目指すとともに、生徒一人一人をみつめ、その資質・個性に応じた教育を行うことを教育方針とし、豊かな人間性を育み、高い知性と自律性、たゆまぬ実践力をもつことを指導目標とする。

学級数：6 生徒数：145 普通科・森林環境科

休部になった VYS、ふたたび

3 年前は休部状態だった VYS を現在の 3 年生の熱意でよみがえらせた。現在、3 年生が 8 人、1 年生が 5 人在籍しているが、遠慮がちだった 2 年生は、意識の高い 3 年生の部長から仕事を引き継ぎつつあり、自発的に活動する生徒になった。

主な活動は、久万幼稚園訪問、御用木祭り、図書館での幼稚園児対象の読み聞かせ活動、募金、介護施設夏祭りの補助、軽トラ市での苗の販売、地域のクリスマス会等がある。

校内では、毎週金曜日、全校に呼びかけて校内トイレ掃除及びペットボトルキャップの回収をしている。

生徒自身が普段できない体験をすることで、主催する側の苦勞を実感し、感謝されることでやりがいを感じたようだ。また、地域の活性化にも微力ながら貢献した。



コスモス会



ささゆり荘訪問



生徒会では、地域行事のマラソン大会の炊き出し、交通茶屋の補助をする。

家庭クラブは、特別養護老人ホームのささゆり荘を年 4 回訪問し、年賀状や暑中見舞いのお便りを出している。久万保育園へは 5 月頃にプレゼントをつくり、訪問している。

農業クラブの活動は、軽トラ市での苗の販売、公共施設等緑化事業での花植え交流、介護施設へ訪問しランを配布、交通茶屋でも交通安全の呼びかけと苗木の配布をしている。

ボランティア活動はコミュニケーション能力を身に付けたり、視野を広げたりするので必要な活動だと思うが、自主的に参加する生徒は少ない。活動の幅を広げ、自主的に参加できる環境と行動できる生徒を育成したい。



愛媛県立小田高等学校

〒791-3502

愛媛県喜多郡内子町寺村 978 番地

TEL 0892-52-2042

FAX 0892-52-4020

昭和 23 年 開校 定時制課程（普通科・家庭科）

昭和 34 年 定時制課程の生徒募集停止 全日制課程に切り替え

地域社会と一体となって、校訓「友愛・誠実・努力」をもとに、社会の形成者としての自覚を持たせ、生徒一人ひとりの能力・適性・進路に応じた指導とその実現に努め、心身ともに健全でたくましく生きる人間の育成を期すことを教育方針とする。

学級数：6 生徒数 116 普通科

小田が好きと言う気持ちを育てたい

豊かな自然環境に恵まれ、日頃から地域とも繋がりが深い本校では、様々な活動を実施している。夏草が生い茂る 7 月には、毎年小田中学校と合同で地元にある「城の台公園」の草引きや遊具磨きなどの清掃活動を実施している。また夏季休業中には、生徒の各居住地域でボランティア清掃を行っている。

小田の地域からは、夏祭り（7月の灯籠まつり・8月の火祭り）の準備や運営、防災訓練の補助、また、老人ホームのイベントの手伝いや内子町主催の「せんの森プロジェクト」運営補助などの依頼があり、ボランティアスタッフとして積極的に参加している。

地域の幼稚園とは、小田川でのカジカ捕りやいかだ遊びのお手伝い、お祭り練り歩き（御輿を担いで町中を歩いて回る）の補助などを行い交流している。練り歩きの前には、園児と一緒に御輿を作ったり、伝統芸能の獅子舞を保存会の方に教えていただき園児と共に披露したりもする。また、本校の運動会や文化祭に園児を招待し、ダンスを踊ったり手作りのおもちゃで遊んだりして交流を深めている。



人口の減少が進む小田地区では、高校生の若い力はとても頼りにされており、温かく迎え入れられて活動ができています。相手に感謝されることで「参加してよかった。また何かしよう。」という気持ちが生まれ、相乗効果が生じています。生徒たちは課外指導や部活動で多忙な学校生活を送っているが、地域の方々に必要とされていると感じることで、自己有用感を持つことができている。また、異年齢の人たちと接することで、コミュニケーション能力が鍛えられている。このような活動を通して、生徒たちは自分たちが住んでいる地域を知り、地域で活動することで、地域に対する愛情が育っている。



愛媛県立伊予農業高等学校

〒799-3111

愛媛県伊予市下吾川 1433

TEL 089-982-1225

FAX 089-983-4177

大正 7 年 伊予郡立実業学校設立認可 大正 11 年 県立移管、愛媛県立伊予実業学校と改称

昭和 24 年 高校再編成により愛媛県立松山南高等学校伊予分校と改称

昭和 27 年 愛媛県立伊予農業高等学校として独立

徳・知・体の調和のとれた人格の完成をめざし、民主的な国家及び国際社会の有為な形成者となるにふさわしい人間力を培い、豊かな人間性や自ら学び自ら考えるなど生きる力を備えた心身ともに健全な生徒の育成を期することを教育方針とし、生きる力を育み、地域と一体となった農業教育を推進することを指導目標とする。

学級数：18 生徒数：658 生物工学科・園芸流通科・環境開発科・食品化学科・生活科学科・特用林産科

伊予彩まつりで「お化け屋敷」をつくる

7 月下旬に行われる地元伊予市の伊予彩まつりのイベント「お化け屋敷」。全校生徒に募集をかけ、毎年 50 名近くの生徒が参加し、準備から運営、片付けまでを伊予商工会議所の方と協力して活動をしている。生徒が迷路をつくり、用具を組み立てて仕掛けをつくる。お化け役をすることもある。子どもが本気で驚いてくれることや、異年齢の人と交流ができることが生徒にとっては楽しみのである。

その他のボランティアとして、伊予市トライアスロン、松前町福祉ふれあいフェア、禁煙デーパレード、ユニセフ募金、親子ふれあい事業（食育レストラン、チャレンジ未来のアスリート）、近隣保育所訪問、塩屋海岸・重信川清掃活動など多岐にわたる。ほとんどの事業から依頼が毎年来ているので、生徒の活動がそれなりに評価されていると実感している。



生徒の話

ボランティアを通じて、いろいろな人の考え方を知った。自分の知らないことをさらに深めて、広げていきたいと思う。スタンプラリーのときなど、くじを引いて商品を渡すとき、みんなが笑顔だったのがとても嬉しかった。人と関わって、楽しいと感じた。活動をして、自分の価値観が変わった。

将来は、人と関わる仕事につきたいと考えている。



お化け屋敷の組み立ての様子

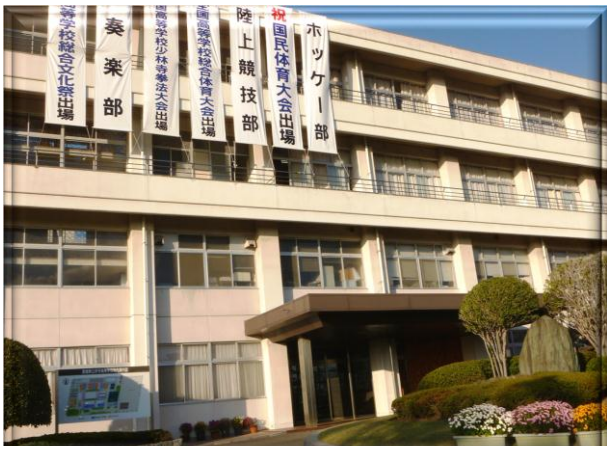


お化け屋敷の入口付近の様子



ボランティアは自分の価値観や視野を広げるために必要だと思うが、無理やりの強制参加や調査書の点数のための参加は必要ない考える。

すべてのボランティア活動に教員は引率できない。管理責任は誰がするのかをはっきりさせることが必要であることと同時に、参加する生徒に責任を持たせる（仕事として意識させる）ことが大切だと思う。



愛媛県立伊予高等学校

〒791-3102

愛媛県伊予郡松前町北黒田 119 番地 2

TEL 089-984-9311

FAX 089-985-0622

昭和 58 年 開校式並びに第 1 回入学式挙行

「意欲的に学習し、授業中には積極的に発言をする、気持ちのよい挨拶をする、交通マナーを守り時間に余裕をもって登校、学校行事に協力して取り組む、ボランティア活動に積極的に取り組む」という生徒会からの生徒宣言を受けて、今年も、「夢をかなえる、今日の第一歩」と題して、「あなたとの心のふれあいをめざし、あなたと共に凜とした生き方をめざし、あなたの夢の実現のため全力を尽くす」ことを教育目標とする。

学級数：24 生徒数：941 普通科

松前の町をきれいにする

「郷土を美しくする清掃」の一環として松前町と連携して、7月の平日午後に1年生は国道沿いにて除草、ゴミ拾い、2,3年生は校内で除草作業をする。

学校北側水路周辺を環境美化委員と生徒会、生徒及び教職員の有志が清掃活動を始め毎年5月に実施している。

家庭クラブからの発信は、校内の朝清掃を全校生徒で実施しようというもの。日程を決めて分担して行っている。



カーテン洗濯

家庭クラブの活動は、校内のカーテン洗濯にもおよぶ。教室にはいつもきれいなカーテンが泳ぐことになる。他には、地域のひまわりの苗植え、北黒田の海岸清掃、親子防災キャンプの手伝い、保育所ボランティア、高齢者施設の清掃、楽器クラブの活動に参加等たくさんある。

生徒は、活動を通じて、少しでも地域貢献をしたいと思い、「また来てね」「ありがとう」の言葉に喜び、福祉の仕事に興味をもつようである。

現在は、「自らやってみよう」という気持ちを持った生徒が少なくなってきたように思える。今後は、そういう気持ちを育てる教育が必要だと考える。



小富士保育園 ボランティア



北黒田海岸清掃 (H24 年度)



愛媛県立大洲高等学校

〒795-8502

愛媛県大洲市大洲 737 番地

TEL 0893-24-4115

FAX 0893-23-4708

明治 11 年 共済中学校開校

明治 37 年 愛媛県立大洲中学校と改称

昭和 24 年 学制改革に伴い、愛媛県立大洲高等学校となる。

国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。また、生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、貢献できる人材を育成することを教育方針とする。

学級数：15 生徒数：593 普通科・商業科

「ほっとかれへん」という気持ちを育てる

VYS 部はボランティア団体からの依頼で、大洲児童館、喜多児童館、徳森児童館の合同事業である、夏休み「お楽しみ子ども会」のお手伝いをしている。担当は、綿菓子、かき氷、ゲーム、工作等である。その他には、地域の奉仕活動、自主的な清掃活動などを行っている。生徒は、子どもとのふれあいの中で、自分の幼少のころを思い出し、社会の中で、自分たちの生き方なり方を、どのように社会貢献に結び付けていくかを少しずつではあるが、肌感覚として身につけている。

また、PTA の保護者の方々と生徒保健委員が校内に花のある環境づくりを定期的に行っている。自分たちの学校をきれいにする美化意識が育ち、気持ちよく生活することの快適さを知ったと思う。

一見無駄だと思えることに、実は大切なものが隠されている。自分の得にならないことを一生懸命することで、大切なものが育つ。



偶然、大洲児童館の館長さんが通りかかった道路で、VYS 部員が自主的にゴミを拾い掃除をしていたと、学校に連絡が入った。自分たちで気づき、「やろう」という気持ちになることが貴重だと考えている。

ボランティアを日本語に直すと「ほっとかれん」と訳した人がいる。「自分さえよければいい」という社会の中で、「美しい心」をもう一度見つめなおしたい。個人の小さな「ほっとかれん」気持ちを大きく育てて行ってほしい。

今の高校生は、勉強とスポーツ、部活に塾と大変忙しい。その中で、「できることをできるときに、無理をしないで長続きするように」ということを心がけていきたい。





愛媛県立大洲高等学校

肱川分校

〒797-1503

愛媛県大洲市肱川町宇和川 3395

TEL 0893-34-2501

FAX 0893-34-2601

昭和 23 年 大洲農業高等学校肱川分校創立

昭和 24 年 大洲高等学校肱川分校となる

自律・練磨・創造を校訓とし、基礎基本を重視したていねいな授業を推進し、一人一人の生徒を活躍させ生きる力を育み、学校行事などの感動体験によって、思いやりと豊かな心を持つ生徒の育成を目指す。

学級数：4 生徒数：30 普通科（4年制）

地域を花いっぱいにする

肱川町主催の「花いっぱいの町づくり推進事業」で、町内を花でいっぱいにしようと、小中学校と一緒に学校の周りに花を植えて、訪れる人に楽しんでもらっている。

また、7月、11月は大洲土木事務所主催の「愛リバー清掃活動」で、河川敷でのゴミ拾い等清掃活動に参加した。

大洲警察署の「交通茶屋」では、毎年、2週間くらい前から手作りのクッキーを作り、道行く人に渡して喜んでいただいている。

11月のお茶会では、介護福祉施設の高齢者の方々を招待して、お茶のお点前を披露しおもてなしをする。毎回、60～70人ほどの参加がある。その折、音楽グループは、利用者の知っていそうな曲を選択し歌う。今年は「さぼてんの花」を歌った。高齢者の方は「知っている曲なので楽しめた、とても上手だったよ」と褒めてくれる。

地域があつての学校なので、感謝の気持ちをこめて恩返しをしたいと思っている。また、生徒にとっても体験活動で人とふれあう良い機会である。



お茶のお点前を披露する



交通茶屋



清掃活動

入学当時は元気がなかった生徒が、とても明るくなって卒業する。

生徒がボランティア活動をすることで地域にアピールできるとともに、生徒自身も感謝されたり、褒められたりすることで自己肯定感が育まれ、協調性や社会性が育っている。

学校行事等では喜んでする生徒がほとんどだが、学校外や社会に出たときにも、積極的に活動してほしいと願っている。



愛媛県立大洲農業高等学校

〒795-8509

愛媛県大洲市東大洲 15 番地 1

TEL 0893-24-3101

FAX 0893-23-5232

大正 14 年 大洲村 10 ヲ町村学校組合立大洲高等農業補習学校開校

昭和 15 年 県立に移管 愛媛県立大洲農業学校と改称

昭和 23 年 学制改革により愛媛県立大洲農業高等学校と改称

『どこに出しても恥ずかしくない人間になれ』『国家社会の役に立つ人間になれ』を校訓に、将来の国家及び地域社会の有為な形成者として、伝統の継承と郷土愛をはぐくみ、国際的視野をもった人間を育成することを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：307 生産科学科・食品化学科・生活科学科

農業高校の専門性を生かした活動

生徒が指導者となり、小学生と体験学習を行っている、「大農うきうきわくわくスクール」は、年間 6 回土曜日開催される。それぞれの学科が持ち回りで特色を活かした活動をしている。

また、地域住民を対象に大農開放講座を年間 6 回土曜日に開催している。総合学習の一環として生徒は講座の補助として参加する。

毎年生徒が丹念に育てた菊を菊花展へ出品。今年度は、奥道後菊花展で賞をもらった。

実習として、商店街の「あいたいな産直市」に出店、大洲芋コロッケや手作りのジャム、クッキーを販売した。

その他の活動として、全校生徒による清掃活動、生徒会・農業クラブ・家庭クラブを中心にした有志による地域や介護施設のイベント手伝い、VYS 部は、児童館でのクリスマス会、もちつき子ども会等、家庭クラブでは、JR 駅清掃、老人福祉施設訪問等がある。

いずれの活動においても地域の方々と交流する機会が多く、異年齢、異職種の方々とふれあいは、学校生活だけでは得ることのできない貴重な体験となっている。また、本校主催の活動は、日ごろの学習の成果を披露する場でもあるので、生徒の自信にもつながっている。

また、学校以外で多くの方々と交流することで、コミュニケーション能力を向上させ、視野を広げ、将来の進路を考えるヒントにもなりえる。

今後も、できる限り継続していく予定であるが、必要に応じて参加方法を見直し、より多くの生徒が参加できる活動にしていきたい。





愛媛県立長浜高等学校

〒799-3401

愛媛県大洲市長浜甲 480 番地 1

TEL 0893-52-1251

FAX 0893-52-3115



昭和 15 年 長浜家政女学校設置許可

昭和 23 年 愛媛県立長浜高等学校設置

地域社会や家庭と連携をとりながら知・徳・体の調和のとれた高校教育を推進し、人格の形成と社会の担い手としての必要な資質の向上を図ることを教育方針とする。

学級数：6 生徒数：134 普通科

第 3 土曜日は 300 人の来館者 長高水族館

昭和 10 年、四国で初めて長浜に水族館が誕生した。その水族館を高校生レベルで復活させようと、平成 11 年長高水族館ができた。教室 2 つ分のスペースで、毎月第 3 土曜日 11 時～15 時開館している。水族館部の生徒は 19 人。本校の生徒は全体的におとなしいので、入部したての生徒は、来館者への説明も頼りないが、3 年生になると余裕を持って対応できるようになる。幅広い来館者との交流を通してコミュニケーション能力が向上し、自信をつけることが出来たようである。

また、商業部の生徒は水族館の地域への経済波及効果を研究し、地域で発表した。家庭クラブは水族館の隣の教室で来館した子どもたちと遊んだり、アクセサリ教室を開いて訪れた人に作ってもらったりして喜ばれている。全校生徒がなんらかの形で水族館に関わっていて、その活動ぶりは大変意欲的である。

長浜では、この水族館で町を活性化しようという動きがある。7 割の生徒が長浜町外から通学しているが、ほとんどの生徒はこの町の活性化に関与することで、郷土愛を育み、地域貢献の必要性についても実感しているようだ。

また、町内の商店街に水槽を設置し、町全体を水族館にする「長浜まちなみ水族館」プロジェクトが始まる。この取り組みを本校も応援する。

生徒が情熱を失わないようにするためには、生徒自らの意思で活動することが大切である。その仕掛けをどのように作っていくか、また、生徒は 3 年で入れ替わるため先輩から後輩への引き継ぎが円滑にできるようにするにはどうすればいいか、これからの課題である。



本校の家庭クラブ員は、年 4 回の JR 伊予長浜駅待合室の座布団カバーの掛け替え、毎月 1 回の清掃活動をしている。

地域がきれいになることでやりがいを感じ、地域の方から、「お世話さま」と言葉をかけていただいて、生徒は「やってよかった」と思うようである。

今後も、できるだけ多くの生徒に活動の場を提供し、無償で得られる満足感を体感してもらいたい。



愛媛県立内子高等学校

〒791-3301

愛媛県喜多郡内子町内子 3397

TEL 0893-44-2105

FAX 0893-44-5708

大正 9 年 内子実科女学校創立

昭和 23 年 愛媛県立内子高等学校として発足

自らすすんで学び、自ら考え、自ら表現できる生徒を育成することを指導方針とし、知力・気力・体力の充実と共生の心を育む教育を推進する。

学級数：9 生徒数：351 普通科

エコレボリューション～小さなことから始めよう

学校内ではエコキャップ収集箱を設置。全校生徒に呼びかけている。集まったエコキャップはワクチンにかわり小さな命を救うことになる。また、校外活動として防犯パレードの参加、児童館行事でバルーンアートを作成して配っている。地域の内子自治センターでのお祭りでは、たこ焼きやフランクフルト、焼きそばやカレーを作り販売した。地域の方々からは、高校生の参加が多くて助かったといわれる。

内子の冬は寒いので、座布団を作成し、内子駅で使用してもらっている。座布団カバーをするときには、部活動単位で呼びかけをして駅構内や駅周辺、並木道あたりを清掃している。設置した座布団については利用者から感謝の言葉をいただいた。

その他には、介護施設訪問、募金活動等、意欲的にボランティア活動に取り組んでいる。

今後はさらに、町おこしのために開催されている県内の「ご当地グルメ甲子園」にご当地グルメスイーツを開発して出店したいと考えている。



生徒の話

エコキャップ運動は、保護者や地域住民にまで浸透していった。地域の人に感謝の言葉をいただくと、自分に自信がもてるようになる。初対面の人とも話ができるようになり、自分の成長の糧になると思う。

困っている人がいるのに、私たちができることをしないのはつらい。生きていくためには助け合うことが大切。内子駅に設置している座布団も「暖かくて助かっている」といわれた。活動を通して、周りを見ながら行動する必要があると感じた。

ボランティア活動に参加した生徒はみんな笑顔で、終わったあとは「楽しかったね」と一言。ボランティアに対する考え方が変わったこととこれからの活動に活かせると思った。自分が本当にやりたいことを見つけ出せるかもしれない。

医療系に進みたいという希望があり、施設に訪問したが、人との関わりの大切さや充実感や達成感を味わうことができた。活動を通じて、何事にも意欲が湧き積極的になれた。また、自分の知識を広げることが出来た。



バルーンアートづくり



内子自治センターでたこ焼きづくり



愛媛県立八幡浜高等学校

〒796-0010

愛媛県八幡浜市松柏丙 654 番地

TEL 0894-22-2570

FAX 0894-22-1499

明治 34 年 八幡浜甲種商業学校として認可

昭和 24 年 旧制商業学校、旧制中学校、旧制高等女学校の 3 校が統合され愛媛県立八幡浜高等学校となる

校訓 五綱領「勉学・礼儀・健康・融和・奉仕」を基調として国家社会に有為な形成者としての資質を養い、社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り開く確かな学力を育成し、個性を尊重して、国際的視野を持った心豊かな人間を育成することを教育方針とする。

学級数：19 生徒数：746 普通科・商業科

八幡浜商店街の活性化をめざす

商業研究部は、地域の活性化を目指し様々な活動に取り組んでいる八幡浜市社会福祉協議会主催の「福祉のつどい」で、劇やダンスを披露した。

また、就労支援事業団体へアイデアを提供して、「みかんクッキー」の商品開発に関わっている。このクッキーは八幡浜商店街、文化祭等で売られ、収益金の一部は、東ティモールへ送られる。

さらに、八幡浜港において、ゴールデンウィークやお盆、年末など乗船客が多い時期に、再び、八幡浜に来てもらいたいという気持ちを込めて、大分行フェリーに乗船する人のお見送りをする。

ほかに、みかんの PR のためのみかん検定や、ちびっこ浴衣コンテストを実施している。11 月 28、29 日には、全国高等学校生徒商業研究発表会へ参加し、優秀賞を受賞した。これらの活動が町の活性化へつながると信じている。

地域の方々からは、「高齢者が高校生に元気をもらっている。高校生がいないと地域の行事が成り立たない」との声も聞かれる。



その他には、VYS の小学生のディキャンプでのカレー作り、家庭クラブの乳幼児施設、介護施設、地域イベント等へのお手伝い、さらに街頭募金もしている。また、愛宕山トンネルを抜けて通学する生徒がいるからと VYS や家庭クラブ、運動部生徒が中心となって、愛宕山トンネル周辺の清掃活動をしている。

高校生のボランティア活動は地域に活気を与えている。生徒自身も年齢や価値観が異なる人々とかかわることで、新たな学びや気づきがあり、社会に対して興味・関心をもち、自分自身に対する理解も深まっているようである。

今後も多くの生徒をボランティア活動に参加させたいが、部活や補習等ため、土日の参加が難しく、特定の部活動への依頼となることが多いので、顧問の負担が大きくなることが課題となっている。



愛媛県立八幡浜工業高等学校

〒796-8003

愛媛県八幡浜市古町二丁目3番1号

TEL 0894-22-2515

FAX 0894-22-3106

昭和37年 愛媛県立八幡浜工業高等学校設立許可

教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的國家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を育成することを教育方針とし、基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成を努力目標とする。

学級数：9 生徒数：311 機械科・電気技術科・土木科

育てたバラを高齢者に贈る

園芸部の生徒が育てたバラを近隣の高齢者に届けている。1年生全員が学校から30分以内に住まいのある高齢者を訪問して贈る。たいへん喜んでいただくことも多く、「高校生とのやり取りで元気もらっている」と、温かいお礼の言葉をいただくことも多い。生徒は、「行ってよかった」と次の活動への意欲につながっている。

また、地域から依頼のあったボランティア活動を家庭クラブ・VYS部が中心となって行っている。福祉施設や地域の幼稚園でのイベントのお手伝い、八幡浜マウンテンカーニバルではレースやバザーの補助、児童センター「夕涼み会」においてお化け屋敷設置のお手伝い等、体力のいる仕事を任される。

高校の体育祭、文化祭には、地域の幼稚園児・高齢者も招待する。幼稚園児は、高校の大きなグラウンドでとても楽しそうにダンスを踊り、高校生と一緒にかけっこするので、保護者も毎年楽しみにしてくれている。男子が多い高校なので、「ダイナミックに遊んでくれるお兄ちゃん」にとっても嬉しそうである。

また、文化祭では、和菓子を作り、お茶席を設けて高齢者を接待する。

高校の行事は、地域の方がたくさん来られるので、たいへん賑わうことになる。



人から感謝される経験を積むことで、自己有用感を高めることができた。自分に自信が持て、また人の役に立ちたいという思いを持つ生徒も多い。

本校は就職希望者が多いため、社会人としても地域に貢献できる人材が求められているので、ボランティア活動は非常に重要であると考えている。しかし、部活動の加入率が高いこともあって、休日に行われるボランティア活動に加できない生徒が多い。



愛媛県立川之石高等学校

〒796-0201

愛媛県八幡浜市保内町川之石 1-112

TEL 0894-36-0550

FAX 0894-36-1994

大正 3 年 伊方実践農業学校および大正 5 年 川之石実践女学校創立 この両校を母体とする

昭和 23 年 学制改革により川之石高等学校となる

平成 8 年 学科改編により総合学科

生徒にとって満足度の高い学校、保護者にとって信頼できる学校、地域にとって無くてはならない学校を目指し、確かな学力の定着と向上、豊かな人間性の育成と向上、「夢」をかなえる進路指導の実践、安全・安心な学校づくり、教育環境の整備に努める。

学級数：9 生徒数：348 総合学科（スポーツ科学系列・情報ビジネス系列・福祉サービス系列
生物生産系列・自然科学系列・人文国際系列）

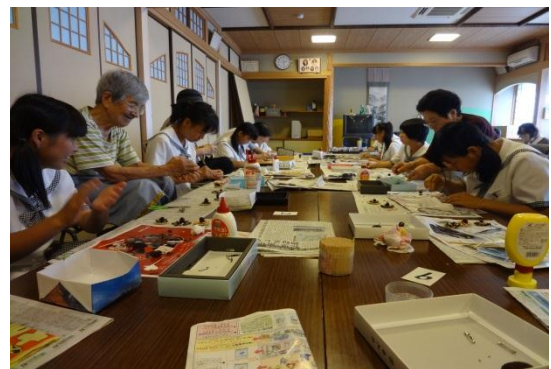
全校生徒で地域に恩返し

主に福祉サービス系列を中心として、積極的にボランティア活動を行っている。地域の病院主催の運動会の補助やフットサル交流、発達支援センターにおける未就学児夏休みプール遊びのお手伝い（一人に一人の生徒がつく。今年度は野球部生徒が参加）、「福祉のつどい」、文化祭等で手話コーラスの披露、公民館でお弁当を作りそのお弁当を一人暮らし高齢者宅への配布等がある。公民館へ直接来られる高齢者とは一緒に食事をする。

福祉系で就職する生徒のほとんどは近隣の福祉施設に行くことが決まっている。

平成 21 年、当時の校長が、積極的に活動をしていた生徒のために、何か形のあるものを取り入れたいと、「ボランティア活動認定制度」をつくった。この制度は、一定時間以上の活動を行った者に対して、認定証を授与しその取り組みを讃えるというものである。まず、事前登録が必要となるが、初年度が 65 名だったのが、平成 25 年度には 145 名と年々増加している。今では、学校全体の取り組みとして、男女、年次、部活動、進路を問わず、多くの生徒がボランティア活動に参加するようになった。

生徒は、依頼された活動に積極的に参加するものの、自分たちが企画し実践するという点では、まだまだ十分とは言えない。今後、生徒自らが動き、達成感が味わえるような活動を増やして行く必要があると考えている。「ボランティア活動」はとても地道で高校生にできることは限られているが、今まで育ててもらった地域への恩返しとして、地域の発展につながる活動をこれからも続けていきたいと考えている。さらに、この活動が将来へとつながり、地域の福祉活動を担う人材育成へと発展することを願っている。



地域の人とブローチ作り



児童センターで赤ちゃん和交流





愛媛県立三崎高等学校

〒796-0801

愛媛県西宇和郡伊方町三崎 511

TEL 0894-54-0550

FAX 0894-54-2247

昭和 26 年 愛媛県立三崎高等学校創立

生徒一人一人の個性を尊重し、ゆとりある伸び伸びとした学習活動を推進することにより、たくましく生きる力を育成することを教育方針とする。

本年度の努力目標は三崎高校を大切に！！少人数教育の充実を目指して

学級数：5 生徒数：94 普通科

小学生といっしょに佐田岬13里見て歩き

8月、伊方町の小学生の手をつないで1泊2日、2日に分けて、佐田岬39.5kmを歩いた。全校で希望者を募るがほとんどがVYS部の生徒である。主催は伊方町の公民館だが、毎年、「来年もお願いしたい」といつてくれる。

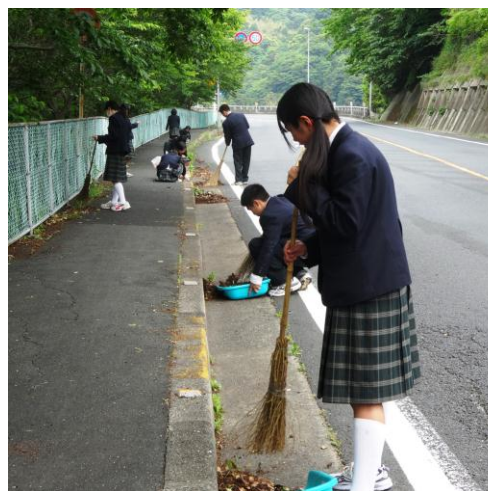
部員は16名。毎日、校内外の清掃活動などに取り組んでいる。

地域の高齢化が進む中、地域の一員としてイベントの補佐等に生徒が積極的に参加して活動している。

生活基盤が地域のため、ほとんどの生徒は地域住民に把握されており知り合い状態である。

三崎の祭りでは高校生は獅子舞を、小学生は太鼓を叩く。3日間をかけて一件ずつ回った。また、二名津の鯉のぼり祭や佐多岬ふるさとウォークの運営補助も行っている。

クリーン愛媛では、中学生や地域の方々と河川敷の草刈りをした。



イベントを終えると、楽しかった、来年も参加したい、「ありがとう」と言われて嬉しいという感想が多いが、おとなしくて、言われたとおりにする生徒がほとんどで、自ら動くことができない。参加することだけではなく、活動そのものにおいて、自主性を育てていく必要があると思う。

2年生の修学旅行先である渋谷で、JA西宇和の提供で道行く人にミカンを配った。学校に「高校を応援しています」とのメールがたくさん届き、三崎を知ってもらえる良い機会となった。

現在、ホームページを毎日更新している。



愛媛県立三瓶高等学校

〒796-0908

愛媛県西予市三瓶町津布理 3463 番地

TEL 0894-33-0033

FAX 0894-33-0538

大正 5 年 第二山下実科高等女学院として設立

平成 24 年 学制改革に伴い愛媛県立三瓶高等学校となる

三高スピリット、思いやりの心（徳） 向上する心（知） 健やかな心（体）を教育方針とし、自己教育力の高揚を目指して、基礎・基本の徹底を図り、生徒一人一人の自己実現を促す。

学級数：6 生徒数：124 普通科

清掃活動は保護者も一緒に

学校の周り等、敷地内を全校一斉に清掃活動をする。生徒の数が少ないので保護者の力も借りる。小中高と一緒に生徒が多いので、保護者もほとんどが顔見知りで、軽トラックを出してくれたり、気軽に声をかけてくれたりしてくれる。

また、三瓶の生徒は小学校で百人一首を覚えさせられる。そのこともあって、高校では講師を迎えて2年生全員が百人一首にチャレンジしている。

1年生は夏休みを利用して年1回、特別養護老人ホームを訪問し、食事介助やレクレーションのお手伝いをする。三瓶高校出身の介護職員も数名いて、後輩のために介護職への就職をすすめてくれることもある。

年に1度、三瓶町のお祭り、三瓶町奥地の海のカーニバルがあり、生徒は、そこにボランティアスタッフとして参加、「たらいに乗って海へカーリング」ゲームの補助やゴミ拾い、受付・案内等をする。遊覧船もでるこのお祭りは、毎年県内外から数千人の参加者がある。



祭りのボランティアでは地域住民との交流もあり、三瓶町という小さな町で生活していく者として人とのつながりを学ぶことができている。

生徒数が少なくなっているため、清掃活動においては広範囲で作業することができない。積極的に活動に参加している生徒は見られるが、全く参加できていない生徒もあり、そういった生徒にどのような声をかけてボランティア活動に参加させるかが今後の課題である。



愛媛県立宇和高等学校

〒797-0015

愛媛県西予市宇和町卯之町四丁目 190 番地 1

TEL 0894-62-1321

FAX 0894-62-6127

明治 41 年 宇和郡立養蚕学校が開校

大正 7 年 愛媛県立宇和農業学校と改称

昭和 24 年 愛媛県立宇和農業高等学校・愛媛県立東宇和高等学校が合併し愛媛県立宇和高等学校となる

「大地と共に心を耕せ」という教訓は札幌農学校の教育理念とされ、養蚕学校を前身にもつ本校の「農場訓」として引き継がれている。豊かな心を持ち、たくましく今世紀を生き抜く生徒を育成する本校にとって、この「大地と共に心を耕せ」は、普通科・農業科から成る総合制高校の教育理念として最もふさわしく、誇らしい言葉である。宇和高校では、さまざまな教育活動を通して「こんな大人になってほしい」という視点での教育を行っている。

学級数：10 生徒数：328 普通科・生物工学科

介護施設へ年 2 回のお便り

毎年、比較的余裕のある授業の時間を利用して、暑中見舞いと年賀状を書き、介護老人福祉施設へ送る。高齢者からは、「応援している」「優しい言葉にはげまされて元気が出た」等、感謝の気持ちがあふれた心のこもった手紙が届く。

また、琴の演奏をディサービスからの依頼でしているが、その日に合わせて家庭クラブも訪問し交流をしている。

VYS 部は、保育所の夕涼み会のお手伝いや毎年 4 月 29 日の市のイベント、「れんげ祭」に障害者施設の人と一緒に出演して楽しんでいる。児童館の夏休みやクリスマスイベントのお手伝い、特別支援学校の学園祭での販売などもする。VYS の生徒は、このような活動を楽しみにしており、休日でも率先して行く。部員は 25~26 名いるので、同時期のボランティアであっても、どの活動に行くかは相談して決めている。高齢者は、若い人が訪問するととても喜んでくれる。施設の職員は、「普段はあんなに一生懸命しない」といい、生徒は「握手の手を放してくれない」と笑いながら言う。

図書委員会では、児童館にて本の読み聞かせをしている。パネルシアターや紙芝居の準備がたいへんそうであるが、子どもたちの笑顔を楽しみに活動している。



お琴の演奏



読み聞かせの様子



生徒会はペットボトルの回収や地域の清掃活動を行っている。高校生のおきにボランティア活動を通して、人とのかわりについての基本的な姿勢を身に付けておく必要がある。参加活動すると「生きた言葉」で伝わることが多い。しかし、部活に忙しい生徒は時間がないので授業の一環でやってもいい。固定的なイメージで考えないで、広い視野をもって生徒を育てたい。



愛媛県立野村高等学校

〒797-1211

愛媛県西予市野村町阿下 6 番地 2 号

TEL 0894-72-0550

FAX 0894-72-0367

昭和 21 年 東宇和郡東部 10 カ町村組合立野村農業学校設立認可

昭和 23 年 愛媛県立農業高等学校に改称 昭和 24 年 愛媛県立野村高等学校発足

豊かな自然、地域社会にはぐくまれながら、学科の特質と生徒の実態に即応した特色ある 教育を実践する。人格の完成を目指し、調和の取れた人間性、高い知性、豊かな創造性の育成を図り、地域、社会の進展に貢献できる、主体性に富んだ広い視野を持った人間を育成することを教育方針とし、美しく 新しく 逞しく、心・知・体を錬磨する。

学級数：9 生徒数：292 普通科・畜産科

小動物を連れて地域行事に参加

農業クラブでは花壇の除草や掃除、花の定植などの管理を行い、地域の環境美化に努めている。また、ポニーやうさぎなどの小動物を連れて地域の行事に出向き、ふれあい体験やポニーの乗馬体験や花・野菜の苗の販売、地域住民を対象にカルチャー教室を開催して、野菜や米栽培の農業体験を実施し食育を行っている。活動を通して、学校の実習で学んだことが身につけていること、役に立つことを実感している。

VYS 部では、社会福祉協議会からの依頼で独居老人に手紙を書いて返事をいただく、ふれあい交流を行ったり、朝霧湖マラソンスタッフ、児童館の祭り、こども劇場、クリスマス会に参加して綿菓子を作ったり、ゲーム、読み聞かせをして参加、ボランティアグループと一緒に障害児のイベントのお手伝い等をしている。



日ごろ接することのない高齢者の方や子どもたちと接して、お互いの温かい言葉であったり、感謝の気持ちを伝えたりする中で、成長が見られ豊かな心が育まれていると実感する。次は何を手伝ったらよいかと自ら考えて行動しようとする姿勢が身についた。

ボランティアに参加することで、相手のことを考えて行動しようとする思いやりが育まれ行動力が身についた。生徒も参加活動することを楽しみにしており、貴重な体験となっている。

本校は、運動部、文化部ともに活発である。ボランティアに参加できる、時間にゆとりのある生徒を確保することが今後の課題である。



愛媛県立宇和島東高等学校

〒798-0066

愛媛県宇和島市文京町 1 番 1 号

TEL 0895-22-0261

FAX 0895-24-0495

明治 29 年 愛媛県尋常中学校南予分校として設立

明治 32 年 愛媛県宇和島中学校となる

昭和 24 年 愛媛県立宇和島東高等学校が設立される

人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21 世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めることを教育目標とする。

学級数：23 生徒数：868 普通科・商業科

ボランティア部員 3 名で積極的に

現在、ボランティア部員は 2 年生 3 名。積極的に活動している。毎週金曜日、講師の先生と手話学習を行っている。市の社会福祉協議会主催のクリスマス会では、障害のある方々やその家族との交流やイベントのお手伝い等をする。

さらに、公民館夕涼み会の屋台運営、南予いやし博では、伊達博前のブースで甲冑をきておもてなしをした。人数が足りない場合は、全校に募集をかけて有志を募る。

また、年 2 回、宇和高校で栽培した花を駅の入り口の花壇に植える駅前花植えボランティアに参加している。

JRC に加盟しており、夏休みには、愛媛県下の小・中・高生とともに 2 泊 3 日の合宿にも参加した。

2013 年には、国際ソロプチミスト主催の西日本女生徒による発表会でプレゼンをした。



生徒はいろいろな活動を通して、明るく積極的になった。自分で何でもやってみようという気持ちが見られるようになり、よく気も付くようになった。地域の方々からはよく動く、元気をもらったと言ってもらえる。文化祭では手話コーラスを披露した。

学期の終わりには、生徒会が生徒の有志を募ってトイレ掃除をする。学校中のトイレがきれいになるので、新学期が楽しみである。

高校時代には、いろんな場に出かけていき、感じて考えながら活動する必要があると思う。主体的な活動を通して、自らの成長へつなげていってもらいたい。部活や補習で忙しく、土、日のボランティア活動には参加できない生徒も多いが、今後とも校外のボランティア依頼をできるだけ多くの生徒に伝え興味をもってもらうようにしたい。



愛媛県立宇和島水産高等学校

〒798-0066

愛媛県宇和島市明倫町 1 丁目 2 番 20 号

TEL 0895-22-6575

FAX 0895-25-0791



昭和 20 年 愛媛県立水産学校（漁業科）として宇和島市に設置

昭和 23 年 学制改革により、愛媛県立水産高等学校に変更

人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者としての普遍的な資質を養うとともに、我が国の水産業界を進歩発展させるために必要な専門的な知識と技術を習得させ、水産人として国家社会に貢献する有為な技術者を育成することを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：208 海洋技術科・水産増殖科・水産食品科

小さな子どもたちに海や魚を好きになってもらいたい

本校は、水産高校ならではの特色を生かした活動をしている。

水産増殖科では、小さな子どもたちに海や魚を好きになってもらいたいと、地域のイベント等で、学校で育てた金魚で金魚すくい、魚拓教室、食育活動等を行っている。地域からオファーがあり、生徒にとっても教えることや伝えることの難しさを学ぶ良い機会となるので極力参加できるようにしている。

水産食品科は、「マハタぶるるん丼」を開発して、八幡浜みなっとのオープニングイベントや「ご当地絶品うまいもん甲子園」に出店した。また、ブリ大根缶詰を作り宇和島の名産にしようがんばっている。さらに、日本橋の三越から依頼がありまぐろ解体ショーを行った。このショーは好評で多方面から依頼に応じて活躍している。



家庭クラブの活動は、病院での水槽展示介在活動、慰霊牌や宇和島高架下の清掃等がある。地域の方との交流の場となっており、生徒のコミュニケーション能力の育成や命に対する責任感の認識にもつながっている。

ボランティア部は福祉施設のイベントのお手伝いや訪問をすることで感謝され、地域や周囲の人のため、そして自分のために活動することができている。

そして、水産クラブは、「海の日」になにかできないだろうかと、海の大掃除を漁業関係者の協力の下行っている。毎年 100 名近い生徒が参加する。

また、水産高校生が講師となり小学生に海や魚に興味・関心を持ってもらおうと、夏休み中に小学生水産教室を行っている。

えひめ丸事故から 10 年以上経過した。宇和島でも徐々に記憶が薄れつつある。宇和島青年会議所からの依頼を受けて、この事故を風化させないようにするため、地域の小学校へ生徒が訪問し、出前授業をしている。事故のことを他人に説明する機会はなかったが、この活動を通して、事故の悲惨さ、命の大切さ、仲間の大切さ、全国からの支援にたいする感謝の気持ちを再認識する機会となった。

社会にでる前の高校生にとって、目標を見つけて意欲をもち、労を惜しまず体を動かして実践し、誰に対しても思いやりの心をもって接することはとても大切なことである。全校生徒が多く参加できる活動、一人一人が主体となった活動を模索していきたいと思う。



愛媛県立吉田高等学校

〒799-3794

愛媛県宇和島市吉田町北小路甲 10 番地

TEL 0895-52-0565

FAX 0895-52-4616

大正 6 年 山下実科女学校創立

昭和 23 年 学制改革により私立山下高等学校と改称

昭和 25 年 愛媛県立吉田高等学校に併合される

校訓「自律」「忠誠」「愛物」「邁往」の内容は、人間形成の基本的要素を示しており、本校の指導目標である。また、明るく元気に、心豊かで力強く未来を拓く生徒を育成することを重点努力目標とする。

学級数：13 生徒数：472 普通科・工業科（機械建築工学科・機械科・電気電子科・建築科）

「ピュアマインド」と「出前ボランティア」

6 月、11 月、3 月にピュアマインドという通学路の掃除を生徒・教員合わせて 120～180 名ほどで行っている。通学路のほか、津波の避難場所や公園の清掃を実施後、家庭クラブ役員がゼリーやスープなどの手作りの差し入れをする。

また、各部活動が学習を生かした出前ボランティアを実施している。ブラスバンドおよび声楽部が、高齢者施設のクリスマス会で演奏して、その折、家庭クラブで作成した干支のカードを配っている。茶道部は高齢者施設や地域の公民館のサロンへ手作りの菓子を持参してお点前を披露する、ボランティア茶会を実施している。

機械技術部の専門性を生かした活動として、ミニ列車運行を実施している。宇和特別支援学校や吉田園児祭等で、レールや列車本体を持って出向き、レールを敷いて列車に子どもを乗せる、大変な作業ではあるが、幼児の喜ぶ顔を見たり保護者に声をかけていただいて、やってよかったと思うという。

家庭クラブでは、高齢者施設の訪問を年間 5 回実施している。ゲーム・クイズで楽しんだり、お茶会をしたり一緒に大掃除をしたり、いろいろ企画しているが、毎回、高齢者の肩をたたきながら替え歌で「地震の後には津波が来るから、逃げてください」と意識付けをしている。吉田はリアス式海岸にある。

早く避難すれば助かる可能性が大きくなる。

こうした生徒の活動は、ボランティアカードに記録する。生徒自身がコメントを書き、「喜んでもらってよかった」利用者が「お元気そうでよかった」といった言葉がたくさん聞かれる。

活動資金は保護者からの奉仕金を元にしたボランティア基金という別会計で運用している。

各部活動の特色を生かして地域活動を行っていると思う。生徒にとっては、地域との交流を実感できるし、自己有用感を持つことができる。学校行事の日程と調整しながら、校外も出向き、自分を生かすボランティア活動を続けていきたいと考えている。



ミニ列車運行



干支カード



愛媛県立三間高等学校

〒798-1115

愛媛県宇和島市三間町戸雁 764-3

TEL 0895-58-2031

FAX 0895-58-3162

昭和 23 年 県立三間高等学校設置許可

校訓「自律・清純・友愛」の精神に基づき、豊かな人間性と社会人としての資質を備え、地域文化の創造と産業の発展に貢献できる人材を育成することを教育方針とし、「一人一人のよさを見つめ伸ばす教育の実践」を重点努力目標とする。

学級数:6 生徒数:113 普通科・農業機械科

三間高瓦版は「道の駅みま」に置いています

三間高校は小規模ながら、各組織や有志が率先してボランティア活動に取り組んでいる。生徒会は、三間高瓦版（三間町観光案内のマップと、三間高のトピックを掲載したもの）を「道の駅みま」にて配布している。今回は、JR 伊予宮野下駅待合室でのクリスマスの飾り付け、アサザやチューリップの植え付け、人権あつたかコンサート等の話を掲載している。また、生徒会と運動部有志が地域の行事「じゃこ天カーニバル」や三間町納涼祭に参加している。

そのほかに、農業クラブは公園及び道路横の花壇等の美化活動や隣保館祭りでの花苗の販売を行っている。また、クリスマスには、中山池自然公園イルミネーションとコラボするように、手作りの竹灯籠を設置したり、大晦日には龍光寺参道にも竹灯籠を設置して、初詣の参拝者の足下を明るく照らしている。また、家庭クラブの保育園でのクリスマス会開催、海外研究部のカンボジアに義援金や物資を送る活動、ボランティア部の宇和島市身体障がい者体育大会への参加、始業前の清掃活動、箏曲部の、高齢者施設や保育園の訪問演奏など、様々なボランティア活動を実施している。

特に今年は、商工会が行っている中山池自然公園イルミネーションの取り付け作業に、生徒有志 22 名が参加した。生徒からは、なかなか関われない人たちと交流できるいい機会であったこと、大変だったけれど、みんな頑張って協力してできたこと、できたときにはきれいであれしかったことなどの感想が寄せられた。



寄せられた生徒からの感想で、社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを考えることができたようである。

地域の役に立ったことで、自分が大切にされていることに気付き自己肯定感や社会的有用感を獲得することで、他の人も大切にしようと思うことのできるボランティア活動に、今後も積極的に参加していきたいと思う。



愛媛県立北宇和高等学校

〒798-1397

愛媛県北宇和郡鬼北町大字近永 942 番地

TEL 0895-45-1241

FAX 0895-45-2150

昭和 13 年 愛媛県立北宇和農業学校開校

昭和 23 年 愛媛県立北宇和高等学校に改称

協和・責任・健康を校訓に、心を磨き豊かな心を育成し、体力を養い、健全な身体を育成し、確かな学力を定着させ知力を伸ばすことを教育目標とする。

学級数：9 生徒数：316 普通科・生産食品科（生産類型・食品類型）

クリスマスは福祉施設で共に楽しく

家庭クラブでは、校内外の清掃、養護老人ホーム等の福祉施設訪問等、月に1度のボランティア活動をしている。クリスマスには、役員がゲーム等を企画し、旭川荘南愛媛療育センターと広見広楽荘を訪問し交流する。VYS 部や吹奏楽部も参加して、日ごろの練習の成果を発揮してくれる。施設の方には「いつも北高生に来てもらい元気になります」「子どもたちが楽しみにしています」と喜んでいただいている。療育センターからは感謝状もいただいた。

VYS 部は、鬼北町精神保健ボランティアグループの七夕会や運動会に参加したり、長期休暇を利用して保育所のボランティアをしたりしている。生徒は楽しかったようで、進路を考えるきっかけにもなったようである。

生産食品科では総合実習の一環として、わくわく農園を実地。地域の小学生を招き、野菜の種植えや芋ほり、お菓子作りなどを一緒に行う。

自らが希望して参加をするボランティア活動なので、自主性が育ち、異世代間交流では思いやりの心が育まれているようだ。地域の方からの温かい言葉にエネルギーをもらっている。



VYS 部の生徒の話

ボランティアは初めて会う人と話すことができるのでコミュニケーション能力が向上する。将来、体の障害のある人の役に立てる仕事につきたい。



クリスマス会

自主的な活動であれば楽しくその意義を感じるのではないかと思います。しかし、参加したくても部活動や課外授業と重なり参加できない生徒もいる。

人口減に伴い、地域の高校生にかける期待は大きい。すべてを受け入れるのは難しいが、今後も継続した活動を続けていきたい。



保育所訪問



七夕の会



愛媛県立津島高等学校

〒798-3302

愛媛県宇和島市津島町高田甲 2469-1

TEL 0895-32-2304

FAX 0895-32-3046

昭和 23 年 愛媛県立津島高等学校として設立

自律・自尊・克己」を校訓とし、「確かな学力と豊かな心を育て、社会に役立つ力を身に付ける教育の推進」を重点努力目標として、自分の成長を通して社会に貢献する姿勢を身に付けた人材の育成に努める。

学級数：7 生徒数：204 普通科

積極的に交流する！

家庭クラブでは、年 1 回、考査最終日や終業式の午後を利用して施設訪問を実施している。救護施設つしま荘では、草引きや窓拭きなどの清掃活動を実施している。清掃を終えた後は、入所されている方や職員の方から陶芸を習い、湯飲みや花瓶を作る体験をすることが恒例になっている。生徒たちは、土こねから丁寧に教えていただき、回して陶芸を習う生徒も多い。

また、介護老人保健施設ふれあい荘では、ゲームなどを通して 1 時間ほど高齢者と交流する。この訪問も伝統のある行事で、高齢者の方々楽しみに待ってくださっている。お別れのときに交流したおばあさんが涙を流してくれたと感動する生徒、職員の方と夏祭りのボランティアの約束をして帰る生徒など積極的に交流ができています。

家庭クラブの行事は、4 月に年間活動計画を発表し、さらに各行事の前に役員が作ったポスターを掲示して参加者を募っている。1 年生は必ず参加、2、3 年生は希望者としている。



ふれあい荘

生徒会は、宇和島市主催のイベント「じゃこ天カーニバル」等に参加している。

生徒は活動を通じて、「他人の役に立つ」と実感することで自己有用感を育み、相手を理解しようと努めて、共感することでコミュニケーション能力を向上させ、社会に求められている『共生』の在り方を体験的に学んでいる。

本来なら、個々の生徒が自分のできることを見つけて、自主的にボランティア活動に参加する力を育てたいと考えているが、現状ではなかなか難しい。本校では、クラス数減に伴い教員数も減っているため今までの活動を継続していくのが精一杯な状態だからである。

現在の活動を継続しながら内容や方法を工夫して、自ら考え行動できる生徒を育てていきたい。



つしま荘



じゃこ天カーニバル



愛媛県立南宇和高等学校

〒798-4192

愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城 3269

TEL 0895-72-1241

FAX 0895-72-6510



明治 40 年 南宇和郡立水産農業学校として創立

昭和 23 年 愛媛県立南宇和高等学校と改称

真知・闊達・創造を校訓に、21 世紀社会の形成者を目指して、大いなる文化の創造と発展に寄与する自主的精神に満ちた、心身ともに健康な生徒の育成に努めることを教育方針とする。

学級数 15 生徒数 565 普通科・農業科

お遍路さん、柑橘類をどうぞ

農業クラブでは、昨年、国道に面した所に果実のなる甘夏や、愛南ゴールドなどの接待木を植えた。40 番の札所があるので、ここを通るお遍路さんに一息ついてもらおうというものである。食してもらうためには、4~5 年掛かるが、生徒が大切に育てている。この活動がきっかけで、スペイン巡礼路との交流にもつながっている。

昨年からはまった愛南トライアスロン大会では、給水やゴールテープ、後片付けの補助をしている。大会を観戦して、競技者の頑張りに感動する生徒も少なくない。

他には、校内活動では、ペットボトルキャップの回収、地域福祉施設や地域のイベントのお手伝いなどがある。校外活動は、主催者からの依頼により、希望者を募って参加している。介護施設では、高齢者と座席に座って話をする生徒もいる。地域の人はとても頼りにしていただいていて、イベントに参加すると、「どのような参加の仕方でもいいよ」と、とてもあたたかく歓迎してくれる。地域の活動への引率が無理な場合は、地域の人をお願いすることもある。

小さな活動でも、自分たちの活動が社会のどこかで役に立っているという喜びを感じることができている。また、自分を取り巻く地域の活動や高齢者施設、児童福祉施設について実態を知ることができる。地域に一つしかない高校なので、ともすれば閉鎖的になりやすいと思われるが、異年齢の人との交流により幅広いコミュニケーション能力を身に付けたようだ。

ボランティアに 70 時間参加した生徒に学校独自で証定書を渡しているが、ボランティアの全国的な評価システムがあればいいと思う。



愛南トライアスロン大会



接待木を植える



グリーンツーリズムフェスタ



愛媛県立今治東中等教育学校

〒799-1596

愛媛県今治市桜井2丁目9番1号

TEL 0898-47-3630

FAX 0898-47-4146

昭和53年 愛媛県立今治東高等学校として開校

平成15年 県立今治東中学校開校 平成18年県立中等教育学校となる

「人それぞれに花あり」をスローガンに人間力（学力・人間性・コミュニケーション能力）を鍛えることを目標に、中等教育学校の6年間という、人間形成にとってかけがえのない時間を一人一人の個性と能力を伸ばすために、豊かな自然・充実した設備など恵まれた環境で、「大切なひとり」の時間をじっくり見守る。

学級数：12 生徒数：386 普通科（※学級数・生徒数は後期課程）

ボランティアから未来の夢へ

今治特別支援学校が隣にあるため、毎年交流会や吹奏楽演奏、運動会の手伝い等の活動をしている。

また、老人介護施設での交流、志々満保育園での夏祭り・運動会・プール遊び手伝い、リズムなぎなたパフォーマンス等の活動、他校の生徒と一緒におんまぐ祭のゴミ拾い、駅前のゴミ拾い、募金・古切手回収活動等の奉仕作業を行っている。活動の中心となっているのは、VYS部、家庭クラブ、人権委員会、なぎなた部である。

福祉施設へボランティアに行っている生徒のほとんどは、将来医療関係に進みたいという希望があるので、就労している人の話を聞いたり、利用者と交流を図ったりしている。介護施設へ行った生徒の一人は高齢者が涙を流して喜んでくれたことで看護師になることを決めたようである。

将来の職業選択の参考になること、さまざまな年代、立場の人と交流の機会が得られること、達成感を味わえることなどから、ボランティア活動は必要だと思っている。

今後も、地域から依頼があれば、学校行事と重ならない限り生徒の参加を募っていくつもりである。

活動が活発になった場合、生徒が校外活動をする際のボランティア保険はどこが負担するのか、他校はどうしているのか、参考にしたい。





ウエッピー
(マスコットキャラクター)

愛媛県立

松山西中等教育学校

〒790-8016

愛媛県松山市久万の台 1485 番地 4

TEL 089-922-8931

FAX 089-923-3703

平成 15 年 4 月、県立松山西中学校が創設され、県立松山西高等学校に併設された。本県において初の併設型公立中高一貫校としてスタートし、平成 18 年 4 月から県立松山西中等教育学校に移行した。

“Ever Shining”「今」に全力、「ここ」に輝け！をスローガンに、生徒一人一人が特色ある教育活動に全力で取り組み、生き生きと輝きのある学校生活を送ることを通して、豊かな心と知性を身に付けて、高い志を持って未来を拓く若者を育成することを目指している。

学級数：12 生徒数：471 名（後期課程：平成 25 年 5 月 1 日現在）（※学級数・生徒数は後期課程）

ヤングボランティアセンターの活用

学校では、「愛とこころの交流体験事業」と題して、4 年生は、地域の公園の清掃活動、5 年生は、地域の小学校へ出かけていき、子どもたちと作品を制作したり、ゲームをするなどの交流を図っている。

生徒会活動としては、ベルマークやペットボトルキャップ回収、歳末助け合い募金の参加等の活動をしているが、募金は 2 年前から目標額を設定して、東北と NHK へ送っている。

また、各種団体からのボランティア依頼があると、掲示版で生徒に知らせ、積極的な参加を呼び掛けるようにしている。

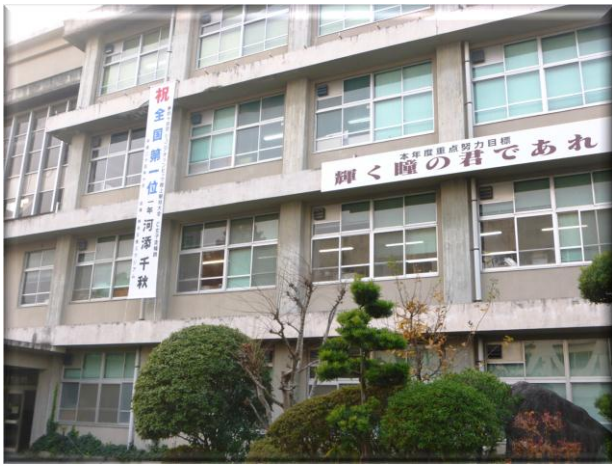
学校外の活動としては、家庭クラブの生徒が参加する、肢体不自由児協会・松山ホストライオンズクラブ主催の泊での 2 泊 3 日の療育キャンプや、愛媛県のヤングボランティアセンターが主催するいくつかの事業を生徒が自主的に選んで参加している。ヤングボランティアセンターでの募集については、担任の教諭にお願いして詳しく生徒に伝えるようにしている。



その中の 1 つ、松山城で観光客のカメラのシャッターを押してあげるというシャッターボランティアをしている生徒は、いろいろな大人と知り合い話ができること、また、松山城からの景観の美しさや歴史を学ぶことにより地域を知ることが嬉しいと言う。さらに、このような体験から地域の課題に気づき、大学への学習対象へと発展させる生徒もいる。

行政と市民の「協働」による行政サービスの向上を目指していくうえで、高校生ボランティアの果たす役割は大きい。参加する高校生にとっても地域行事の運営などに携わることによって地域を知り、地域行事を身近に感じることはもちろん、郷土愛の醸成にもつながるものとする。

今後の課題は、参加者が固定化しつつあるので、新規に活動する生徒を増やす啓発に取り組みたい。



愛媛県立宇和島南中等教育学校

〒798-0066

愛媛県宇和島市文京町5番1号

TEL 0895-22-0262

FAX 0895-23-7080

明治32年 町立宇和島高等女学校、明治42年私立宇和島実科女学校が統合

昭和24年 県立宇和島南高等学校として開校

平成18年 中高一貫校 県立宇和島南中等教育学校となる

自主・自律・健康を教訓とし、進んで学ぶ意欲を高め、心身の調和のとれた生徒の育成、生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし希望する進路の実現、豊かな創造性と広い心、共生の態度を備えた国際的社会人の育成に努める。

学級数：12 生徒数：468（前期生含む）普通科（※学級数・生徒数は後期課程）

聴覚障害者に対する理解を深める

国際文化部の活動として、宇和島南高等学校から継続している手話講座がある。週1回、聴覚障害の方と一緒に手話通訳の方に来ていただいている。手話に親しみ手話が使えるようになって、聴覚障害者に対する理解を深めることを目的としているが、受講している生徒は、自分の世界を広げることにもなると積極的に参加している。

また、部活、後期生有志、国際文化部で、年4回伊達家墓所清掃を行っている。この活動は、事前申し込みが必要で、地域の方々を含め200人程が参加する。12月には、住職から金剛山大隆寺の歴史についての話がある。地域について知ることができるのと共に、地域の大人と交流ができる機会でもある。

他には、JRCの活動、コスモスを植える「花いっぱい運動」に係る市役所の花苗植栽、児童絵画展の補助、障害者施設の模擬店の手伝い等の活動をしている。

家庭クラブは、ボランティア活動として、地域の高齢者福祉施設や幼稚園、保育園との交流活動や清掃活動を行っている。毎回参加希望者が募集人数を上回るため、6年生を優先させている。その他、卒業生へ贈るコサージュ作りなどの活動は多くの4、5年生が参加している。

施設等での活動後は「また来てね」「よくしてくれてありがとう」とお礼をいわれる。後日礼状をいただくこともあり、諸行事は毎年恒例となっている。生徒は、様々な経験を積むことで、臨機応変な活動ができるようになってくる。また、感謝されることで充実感を味わうことができる。

体験活動を通じての学びは、将来社会人としての人的成長につながると信じている。





今治明德高等学校

〒794-0052

愛媛県今治市北日吉町1丁目4番47号

TEL 0898-22-6767

FAX 0898-33-2723

明治 39 年 故玉井高助氏宅に私立今治技芸女子学校を開校

昭和 26 年 学校法人今治明德学園設立

人間一人一人の心の中に存在する徳を磨くことを目標として、勤勉さや知性を身につけ、礼節を重んじる態度を養い、自覚と誇りをもって建学の精神を継承・発展させることができる創造的人間育成に努める。

学級数：15 生徒数：346 進学コース・総合コース（生活調理系 生活福祉系 情報ビジネス系
ものづくり技能系）・美容コース・サポートコース

早朝の清掃、地域から感謝状

年 3 回ほど全校生徒で地域の清掃活動や、家庭クラブを中心に、駅周辺等清掃活動、地域の中高生と一緒に近見山登山道の清掃、また、教員が学校の周辺を清掃していたことが生徒に広がり、授業開始時間の前に有志の生徒が自主的に校内外の清掃を実施している。この朝清掃については地域の自治会から感謝状をいただいた。

約 4 割の生徒が就職するため、実践力を生かした活動が多い。家庭クラブの生徒は、年 3 回家庭科の教員と共にお弁当を作り、学校近隣の独居老人宅を訪問し、お届けをしており、お年寄りはとても楽しみにしてくれている。ボランティアフェスティバルのお手伝い、身体障害者と地域住民が対象となるスポーツ大会（ペタンク）は将来福祉系の就職希望者が主となって行っている。

また、市からの要請で「おんまく祭り」等のボランティア、しまなみランニングバイク選手権等にも他校の生徒と共に活動している。

ボランティア活動は、学校以外の場で社会とつながりが深められるいい機会だと思うが、年中行事の 1 つとして、学校が主導で行うことが多い。本来は、自ら積極的自発的な活動が望ましいが、現状は受動的になっている。

今後の課題として、生徒会や各種役員会等がさらに活発になり、地域ボランティアへとつながる工夫をしなくてはいけないと考えている。





今治明德高等学校

矢田分校

〒794-0081

愛媛県阿方甲 287 番地

TEL 0898-25-3787

FAX 0898-25-6388

平成5年 今治明德学園 矢田分校として発足。

「一人の市民として真に自立できる学力（人間力）の養成を目標に掲げ、大きな学力＝人間力を育む教育の実践、人それぞれ違った個性を認め、自ら伸びようとする意欲を育む教育の実践に取り組む。

ボランティア活動は、将来の自己を生きし社会に貢献する社会人への基礎づくりだと考えている。

学級数：5 生徒数：115 普通科

今治国際ソロプチミストからの提案

生徒の保護者が幼稚園を経営されていたのがきっかけとなって、幼稚園児と一緒に年2回ほど野菜の共同栽培をしている。「お世話をする」体験が、思いやりの心の大切さをしり、自己有用感につながったようである。

今治国際ソロプチミスト（実業界、管理職、専門職等に従事する女性の国際的ボランティア奉仕組織）からの提案で、わが校の部活動アフリカ村おこし企画部が地域のチャリティバザーの商品搬入のお手伝いをしたり、近隣のイオンやフジの前でユニセフ募金をしたりしてソロプチミストと共同で行っている。

国際ソロプチミストの会員の方々からは、若い高校生が活動に参加すると、足を止めて募金をしてもらえることが多いと感謝される。また、カンボジアの地雷撤去や井戸を掘るため校内での募金活動をしている。



バザー手伝い



ユニセフ募金



エコキャップ運動



ボランティアは、他を思いやる心を育て、異年齢集団との交流ができるので必要だと思う。なにより、終わった後の達成感を得ることが出来る。しかし、定期テストや模試、部活動等で時間的制約があり、なかなか全校で取り組むことができない。

人の役に立ちたいと思う生徒もいるし時間がないと逃げてしまう生徒もいる。少しでも多くの生徒にボランティア活動を通じて達成感を味わってほしいと考えている。



今治精華高等学校

〒794-0055

愛媛県今治市中日吉町2丁目1番34号

TEL 0898-32-7100

FAX 0898-32-7105

大正15年 今治精華高等女学校創立

昭和25年 今治精華高等学校に改称

独立自尊の校訓のもと、徹底した基礎学力の充実、進路目標に応じた多彩なカリキュラムで、早い段階からの効果的な進路指導をし、文武両道で各種検定資格の習得を図る。

学級数：9 生徒数：243 普通科・調理科

食育フェスタで生徒が教える

調理科では3年ほど前より、常盤地区文化祭で地域の方と共にお餅やタコ焼きを販売している。地域からは、調理科の生徒が来ないと文化祭が回らないとまで言われる。また、最後まで片付けてくれて助かると感謝されることも多い。

老人福祉施設のイベントには、生徒会から全校に呼びかけて参加者を募る。看護師や介護士を目指している生徒が主に参加する。また、将来保育士になりたい生徒などは、市内の児童クラブの子どもと小学校の体育館でゲームをするなど、交流を深めている。

『ひろえば街が好きになる運動』では、今治のおんまき祭り終了後のゴミ拾い、近見山清掃においては他校の生徒と一緒に活動している。

JICA(ラオス)の活動は、2年前に愛媛出身でJICAの職員の方が講演に来られて、ラオスで運動会を実施したいが赤白帽子がないのでどうかしてほしいという依頼があった。学園祭で募金をして、地元の企業にお願いして届けることができた。ラオスの小学生からお礼の手紙が届き、生徒は自分たちがしたことが世界とつながったと思ったようだ。その後、生徒会で学園Tシャツを作成し収益金をJICAに送った。

生徒は、地域・社会への関心が高まり、知識を深め視野が広がった。また、協調性やコミュニケーション能力が身に付き、自分自身の成長につなげることができた。今後も、生徒会や調理科を中心に全校生徒を巻き込んで、継続したボランティア活動をしていきたいと思う。





済美高等学校

〒790-8560

愛媛県松山市湊町7丁目9-1

TEL 089-943-4185

FAX 089-943-3121

明治34年 私立松山裁縫傳習所が高知県出身の澤田亀により設立される

明治44年 済美高等女学校および済美女学校開校

昭和23年 済美高等学校設置認可

平成14年 男女共学となる。

「やればできる」を校訓に、自己を鍛え「確かな学力と「生きる力」を育て教育新時代を具現する教育の実践を目指す。

学級数：50 生徒数：1350 普通科（特進E・S…文系・理系・音楽専攻、特進国際、特進スポーツ科学、総合…進学・情報・商業・食物科学） 美術科

各専門コースでボランティアをする

全校生徒での奉仕活動として、校外周辺の清掃がある。生徒は、きれいになると快適に過ごすことができることを知り、積極的に行っている。

ヤングボランティアの活動には54名が登録し活動した。年4回、市駅前にて行われる足なが街頭募金には希望者が多く、4月に150名、10月に75名参加した。家庭クラブでは、新玉老人クラブと交流している。また、毎年、済美幼稚園と交流活動がある。済美高校の運動会にも園児を招いている。生徒は、園児と遊び、お世話することがとても楽しいと言う。

各専門コースで割り振っている活動がほとんどである。生徒にとっては、ボランティアは進学に必要な活動なのでやらないといけないという意識があるが、いざ参加してみると、軽々しい気持ちでやってはいけないという気持ちになるようである。



ボランティアのきっかけは、進学によるものがほとんどである。しかし、体験してみると、生徒の心の変化もみられることがあるため、よい機会をあたえることになっていると思う。

個人的に県のヤングボランティアセンターに登録し東北へ行った生徒もいた。

ボランティアは、身近なところにあるもの、生徒が積極的に参加・行動して育ってほしいと考えている。



聖カタリナ女子高等学校

〒790-8557

愛媛県松山市藤原町 468 番地

TEL089-933-3291 FAX089-926-4033

〒790-8557

愛媛県松山市永代町 10 番地 1

TEL089-933-4353 FAX089-934-9041

昭和元年 松山美善女学校開校

昭和 23 年 松山女子商業高等学校と改称

昭和 43 年 聖カタリナ女子高等学校と改称

カトリック精神に基づき、人や社会に奉仕していく友愛の精神を育み、「誠実・純潔・奉仕」の校訓のもと、人格教育に力を注いでいる。

学級数：10 生徒数：279 普通科・総合学科・看護科

カトリックの学校としての取り組み

学校全体としては、毎年 4 月、10 月、市駅前にて足なが育英募金、10 月、11 月、12 月に赤い羽根共同募金、12 月にはクリスマス街頭募金（昨年までは東日本大震災）を行っている。各クラスに募集チラシを配布、参加できる曜日を記入してもらって参加日時を決定する。

夏休みサマーボランティアには、総合学科・看護科は全員参加、普通科は希望者。保育園・幼稚園・福祉関係・図書館（書庫の整理等）の中から自分で選んで自分で連絡して行ってもらおう。生徒は、自己責任で行くので、よく考えて行動しなくてはいけないことも多くてそれがよかったという感想が多い。

本校には、ボランティア活動をしているエンジェル部がある。月 1 回私立病院のディケアサービスに行って高齢者と交流しているが、生徒は月 1 回の訪問なので、高齢者と親しくなることも多く、顔が見えないといろいろ心配したりする。また、県病院の小児病棟でのクリスマス会の活動や、手話の勉強を活かし



て、11 月の高校総合文化祭では手話通訳のボランティアをしている。小児病棟での活動は、小さな子が点滴をしていると複雑な気持ちになるが、喜んでもらえて嬉しいという。

5 月の聖母月は全校生徒が福祉活動をする。地域の独居老人を訪問する生徒と、学校に残って養護施設に手紙を書いたり東北へ千羽鶴を折ったりする生徒に分かれる。

ボランティアは、すればするだけいただくものは多い。自分のためにしているわけではないが、もらってかえるものは大きいと思う。いろんな問題にぶつかることもあるが、それを乗り越える力をどうつけていくかが今後の課題である。



松山東雲中学・高等学校

〒790-8541

愛媛県松山市大街道3丁目2-24

TEL 089-941-4136

FAX 089-931-4973

明治19年 キリスト教主義による私立松山女学校創立

昭和7年 松山東雲高等女学校と改称

キリスト教の信仰に人格形成の基礎を置いた女子教育を行うことを校訓とし、礼節を重んじ、他人と強調する中で思いやりと優しい心、どのような困難にも柔軟に対応し、立ち向かっていくたくましい心を育てる。また、末永く健康的な生活を送ることが出来る知識や気力・体力を育て、一人ひとりの能力を引き出す学習指導により、夢の実現を図ることを教育指導方針とする。

学級数：10 生徒数：274 普通科（※学級数・生徒数は高校生）

乳児院でハンドベル演奏

ハンドベル部は、乳児院や正門前ロープウェイ通り、病院、クリスマスイベント等、遠くは韓国まで行って演奏している。優しい音色に、聞く人の心を癒してくれる。

また、大切なキリスト教の行事として、花の日礼拝がある。この日は、普段かかわってくれるペテル病院やNTT病院、ロープウェイ商店街の人々に感謝の気持ちを込めて花を贈る。

演劇部は、毎年1学期に、キリストの礼拝をしていただいていることに感謝して、刑務所と老人ホーム丸山荘に行って演劇をする。

月に、1～2度、早朝、学校前のロープウェイ街の清掃を部活動有志がしている。この活動は、「小さな親切」運動から表彰を受けた。

茶道部は、城山春まつり、俳句甲子園のお茶席のお手伝い等をしている。



あしなが募金



丸山荘公演 演劇部

どの活動も、関係者から温かい感謝のことばをいただいている。生徒たちは、感謝されたり自分たちの活動が認められたりすることで、やりがいを感じたり、次の活動への動機づけとなっている。

生徒に社会の一員であるという自覚を持たせるとともに、社会で貢献することの喜びを感じさせる手段の1つとして、今後もさまざまなボランティア活動を生徒と一緒に考えていきたいと考えている。

また、引率教員の問題や活動時間のこと、関心のない生徒へどのように呼びかけをしていくかが今後の課題である。



松山城南高等学校

790-8550

愛媛県松山市北久米町 815 番地

TEL 089-976-4343

FAX 089-976-4348

明治 24 年 ジョンソン女史、西村清雄と共に松山市三番町に「普通夜学会」を創立

昭和 13 年 文部大臣指定「松山夜間中学」と改称

昭和 23 年 定時制高等学校、松山城南高等学校と改称

昭和 36 年 定時制廃止、全日制高等学校となる

「受けるよりは与えるほうが幸いである」という聖書の言葉により設立。キリスト教主義教育を通して、一人一人が自分の人生の意味を追求し生きる力を養うことをサポートする。

学級数：26 生徒数：737 普通科・商業科・調理科・看護科・福祉科

老人福祉施設に花を届ける



調理科では、授業の一環として、グルメ甲子園に出場、鯛めしの上にジャコやタコのおんかけをのせたものを出品、準優勝に輝いた。

福祉科では、福祉施設での介助、イベントの手伝い、病院を訪問し、手話による劇やダンスを披露している。

理科部は、城南戦隊ゴガッカーというローカルヒーローを誕生させて地域のイベントに参加、大好評であった。

VYS 部では、「伊予東温 VYS」と協力して、伊予市、東温市、土居町などの児童館や公民館で、子どもと一緒にレクリエーションやクラフト作り、また、「美川 VYS」主催のクリスマス会で上浮穴高等学校 VYS、伊予東温 VYS とともに活動している。また、近隣の老人福祉施設を訪問する。運動会前の清掃や、本校の伝統行事である花の日礼拝の後、施設に花を贈りレクリエーションや食事介助など交流を図っている。

児童館職員は、個々で遊ぶ子どもたちが多く、高校生が来てくれることで、集団で遊ぶ楽しさを感じたようだと喜んでくれる。また、老人福祉施設では、若い人と話す機会がないので、一緒にお茶を飲めることがとても嬉しいと楽しみにしてくれているようだ。



城南戦隊ゴガッカー



岩手県大船渡市仮設住宅にて

東日本大震災で被災した宮城県石巻市にある仮設住宅を訪問するボランティア・プロジェクトを PTA 主催で行っている。教員、生徒も保護者同伴で参加、3 年目となる。昨年、お腹の大きかった人が、次に会うと母親になっていたりと、感無量である。

ボランティア活動の参加者はまだ一握りだが、賛同者や協力者を増やして、一人でも多くの生徒が活動に参加できるようにしていきたい。



新田高等学校

〒791-8604

愛媛県松山市山西町 663

TEL 089-951-0188

<http://www.nitta.ac.jp>

昭和 13 年 新田中学校設置認可（新田仲太郎翁創設）

昭和 23 年 新田高等学校開校

健全な人格を有する人材の育成を目指し、生徒一人ひとりの個性を伸ばさせ、明日の社会に貢献できる有為な人材の育成を図ることを教育方針とする。

学級数：47 生徒数：1585 普通科・工業技術科

資料を基に戦争体験の聞き取り・パソコン入力

JRC 部は、平和活動への取り組みとして、学校の記念館にある膨大な戦時中の資料をパソコン入力している。大変な作業ではあるが、退職した教員に指導していただきながら活動を続けている。また、同窓会の方々に来校していただいて戦時中の話を聞かせていただくこともある。生徒にとっては歴史を知るよい機会となっている。

また、月に 1 度、老人保健施設を訪問して、1 時間程度入所者と一緒に童謡等を歌う「うたの会」も行っている。入所者の方々からは、「またきてね」「ありがとう」という言葉をもらっており、生徒の働きかけが未熟な中でも喜んでいただけていると感じている。

数年前、松山城の学芸員から「もっと面白い活動と一緒に企画しよう」と持ちかけられ、以来年数回、櫓の清掃や観光客への鎧の着付けボランティアを行うようになった。



校内の花壇の手入れ、古切手の回収、文化祭でのバザー、あしなが学生募金への参加、他にも野球部が落ち葉の清掃、生徒会があいさつ運動を行っている。

近年、外遊び・集団体験・地域とのかかわり・自ら企画し実行する、などの経験に乏しい生徒が増えてきている。ボランティアを通して、自分と違う体験や意見をもった同年齢・異年齢にかかわることで、社会性を身に付けたり、集団でのあたたかいかかわりを学んだり、人と交流することの嬉しさを実感したり、社会に積極的にかかわる意欲をもつようになっていたりしている。

どの生徒も活動に参加してよかったと思えるように、同年齢・異年齢と協調できるスキルを身に付けさせることが今後の大きな課題である。





愛光学園

〒791-8501

愛媛県松山市衣山 5-1610-1

TEL 089-922-8980

FAX 089-926-4033

1953年2月、最初の愛光中学入試、男子校として出発する。設立母体は聖ドミニコ修道会。厳しい学問探求とキリストの愛の精神を支柱とする。

高貴なる普遍的教養を体得して、世界に愛と光を増し加え、輝く知性と曇りなき愛の使徒であることを信条としている。

2002年には50周年を迎え、男女共学として新たな1歩を踏み出した。

学級数：15 生徒数：690 普通科（※学級数・生徒数は高校生）

学園内の風紀を生徒の相互扶助で

生徒会活動として（20名程度）学校正門で年3回のあいさつ運動、生徒に呼びかけての赤い羽根・東北大震災の募金活動、不定期ではあるが、最寄りの駅・コンビニ等でマナーチェックや巡視をしている。

また、トイレ、手洗いの石鹸などの衛生用品の補充、健康診断のお手伝いを厚生委員会活動で行っている。

生徒間で、服装や身だしなみの相互チェックを行い、学校内の風紀の現状把握ができるようになった。通学時のマナーについても、「このままではいけない」という意識づけができています。

進学校なので、校外ボランティア活動に学校を挙げて参加することは時間的にも難しいが、部活動の一環として、障害者施設に出かけ、障害についての理解や普通に生活することの大変さを学び、交流することもある。



高校生のボランティアに対しては、社会を知り、大人と触れ合う機会を得て、高校生として何をどう取り組むべきかを知る、実感する良い機会だと思っている。

学校の理念とシステム上、高校生の社会体験を推進することは困難ではあるが、今後の課題として機会があれば、介護施設や障害者施設などを訪問し体験し、そこから感じるものを将来の糧としてもらいたい。



松山聖陵高等学校

〒791-8016

愛媛県松山市久万ノ台 1112

TEL 089-924-8783

FAX 089-926-2383

昭和 35 年 学校法人松山聖陵学園設立認可

松山聖陵高等学校 普通科・工業科（こうぎょう化学・自動車工学・建設）設立認可

校訓「礼儀・あいさつができる」「信義・約束を守り義務を果たす」「明朗・明るく公正な生活態度」のもと、責任感が強く教養の高い、誠実で穏健な人材を育成する。

学級数：29 生徒数：818 普通科（特進・進学・情報・スポーツ）工業科（自動車工学・機械・建築）

出身中学校で清掃活動

自分の住んでいる地域への恩返しの意味を込めて、年 1 回清掃奉仕活動を行っている。事前に 1 年～3 年の生徒が出身中学別に集まり計画を立てる。今年度で 2 度目の実施であったが、参加人数も初年度より増えて、地域をきれいにしようとする活動する生徒が増えている。また、活動中に地域の方から「ご苦労さん」と声掛けをしていただいて、ボランティア活動に対する意識も徐々に高まっているようである。

毎年 2, 3 回、校内に献血車両が入り献血をしている。血液センターからは感謝状をいただき、生徒も命の大切さについて考えるようになった。

また、ネパールで鍼灸医療活動を行っている卒業生の吉岡大祐さんの講演を聞いて、ネパールの子どもたちを支援しようと募金活動をしている。

東日本大震災の支援として、文化祭で津波による被害で形が悪くなった缶詰工場の缶詰を販売した。現在は、復興したその工場から缶詰を購入し販売している。



清掃活動



献血活動



清掃活動

建築科では、地域の子ども神輿をつくり寄付した。祭り時期には校内に神輿が入る。また、内子町からの依頼で、建築コースの生徒が内子町並み復元の模型を作製した。

普通科スポーツコースは、堀江の海岸を清掃してその後、レクリエーション活動を行っている。

ボランティアについては、自己中心的な考えの生徒が少しでも他人のため、社会のために何かできないかと考えるきっかけになるので必要だと思うが、教員が働きかけても無関心な生徒が多いため、どのようにして興味をもたせていくかが今後の課題である。



帝京第五高等学校

〒795-0011

愛媛県大洲市新谷甲 233

TEL 0893-25-0511

FAX 0893-25-3002

昭和 38 年 帝京第五高等学校 開校

健全な身体と精神の育成、実社会に役立つ知性と教養の習得、生徒一人一人の個性の伸長を柱に、実社会に貢献できる誠実で責任感あふれる人材の育成を目指す。

学級数：15 生徒数：365 普通科・看護科・総合学科（総合進学・ビジネス・福祉・生活）

河川敷の清掃で感謝状

平成 10 年、総合学科の開設により、「ボランティア活動の基礎」の授業が始まった。同時期、「地域との交流」を学校の取り組みの 1 つとして活動を始めた。

現在、それぞれの学年で学期に 1 回、学校としては年間 8～9 回、学校周辺、地域の駅周辺、矢落川堤防付近の清掃を行っている。その活動に対して、国土交通省四国地方整備局より感謝状を頂いた。生徒たちは、自分たちの力が、地域社会に役立っていることに喜びを感じているようである。

また、大洲城をろうそくで灯すキャンドルナイトのイベントの手伝い、大洲よさこい祭の実行委員、老人施設の「夏祭り」の手伝い、社会福祉協議会の障害者ワークキャンプの補助等の活動をしている。よさこい祭りでは、主催者が高校生の意見を取り入れてくれたのでとても良かったと思う。



石巻の缶詰を販売する

東北復興支援として、文化祭にて石巻市の缶詰（津波で缶詰工場は崩壊したが残った缶詰）の販売やチャリティバザーをした。缶詰工場との交流は現在も続いている。

地域での活動は、学校が用意して参加者を募ることが多い。生徒には、自分にできることを考えて自ら行動に起こしてもらいたい、そこまでは積極的になれないようである。自分の身近なボランティアに対して自主的に参加しようとする姿勢を持ってほしい。

また、本校は南予広範囲からスクールバスで通学する生徒が多いため、放課後や土日の活動が難しい。それぞれの地域の行事等にも参加する意識を高めていきたい。



よさこい踊り



清掃活動



帝京富士中学校・高等学校

〒795-0011

愛媛県大洲市柚木 947 番地

TEL 0893-24-6335

FAX 0893-24-6336

昭和 55 年 帝京学園創立者沖永荘兵衛元理事長は、郷土における育英事業の一環として、創礎建学の適地を緑山清流の間に位置する現在地に求め、帝京第五高等学校富士校を創立開校。全寮制育英教育の学舎に清新な灯をともしることになった。

『努力をすべての基（もと）とし、偏見を排し、幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断のできる人材を育成すること』を目的とする。

学級数：3 生徒数：38 普通科（※学級数・生徒数は高校生）

肱川で清掃活動をする

本校の近くには肱川という一級河川がある。夏の鵜飼や花火大会、いもたきが開催されるが、終了後はゴミがたくさん落ちている。気持ちよく使ってもらおうと年 3 回、中高生が地域の人と一緒に清掃活動を行っている。

また、毎年 1 年生が保育園を訪問、園児と一緒に遊ぶ。少人数で 6 年間を過ごすため、生徒同士は仲が良く、保育園でも協力して取り組んでいる。園側からは、訪問の機会を増やしてほしいといわれている。

大洲市内にある老人保健施設へも訪問する。生徒の中には人の助けになる仕事に就きたいと、福祉分野や医療系を希望する者も少なくない。主に、交流や食事介助、配膳の後片付け等を行っていて、学校で練習してから施設で歌を歌うこともある。認知の人との交流は、一人一人に合わせた対応を学び、自分との違いを知るよい機会になっている。



老人保健施設訪問

学習だけだと、豊かな人間性は育たない。できるだけ地域に出て異年齢の方々とふれあったほうがいいと考えているので、訪問回数等、今後検討していきたい。

本校は 7 割が寮生。地元ではないが、6 年間大洲肱川で過ごすことになる。この地域を知り、地域の方々とふれあい、地域愛・郷土愛を体感してほしい。

今までは、ボランティアの数も少なかったが、教員も幅を広げて、新たな活動を開拓する必要があると思う。

国際交流として、韓国の姉妹校の留学生を 1 年間寮で預かっている。寮生活が基盤となって、お互いの価値観の違いを認め、文化を学んでほしい。



清掃活動





済美平成中等教育学校

〒790-0054

愛媛県松山市空港通5丁目6-3

TEL 089-965-1551

FAX 089-972-5335

平成 9 年 済美平成中学校開校

平成 12 年 済美高等学校平成分校設置

平成 14 年 済美平成中等教育学校と改称

済美平成中等教育学校は、中高一貫6年制の長所を生かし、生徒の発達段階に応じて基礎期・充実期・発展期を設定し、ゆとりのある効率の良い、私学ならではの一貫カリキュラムで、志望大学への進学を実現する英才教育に努めることを教育方針とする。

学級数：12 生徒数：356 普通科（※学級数・生徒数は高校生）

三線同好会からボランティア

三線同好会は、中学課程12名、高校課程2名の14名で活動している。沖縄の伝統的楽器「三線」を演奏し歌うことを日々練習している。そして、年3回、特別養護老人ホーム幸富久荘、グループホームあきを訪問し、60分ほど三線演奏を行う。終了後、記念写真を撮ったり、折り紙を折って渡したりする。5年前に訪問を希望してスタートした活動だが、毎回感謝の言葉がある。生徒が訪問したことで高齢者が嬉しそうにしてくれると、生徒も嬉しくなり元気をもらうようである。生徒としては、練習の成果を発表できる場であるのと同時に、社会貢献できる場でもあるので、とても大切な活動である。



幸富久荘のみなさんと



自分のことを中心に考える生徒が増えてきているが、周りに奉仕活動等を体験できる場所があれば変わってくる。人に喜んでもらうという経験・体験が必要である。

豊かな社会になり、手に入らないものは少ない。しかし、貴重な体験をする場がないのが現状である。少しでも多くのチャンスを生徒に与えてやりたいと考えている。

移動手段に困るので、近隣の施設への訪問になってしまうことが課題である。



新田青雲中等教育学校

〒790-8541

愛媛県松山市山西町 600-1

TEL 089-951-6655

FAX 089-951-5200

平成 15 年 新田青雲中等教育学校 開校

とべ青雲の空高く 誠 知 進 を校訓に、徹底した学力、心の教育、感動の教育、面倒見のよさを教育方針とする。

学級数：9 生徒数：286 普通科（※学級数・生徒数は高校生）

鉛筆やクリアファイルを購入して募金に充てる

知的障がい者施設、肢体不自由な子どもへの支援を行っている。この事業は、商品（鉛筆やファイル等）を購入して募金に充てるというものである。他には、日本赤十字社の東日本大震災義捐金、ユニセフアフリカ千ばつ緊急募金等、ボランティア委員会が各クラスに募金箱をもって回る。

青雲祭バザーでの余剰品の販売、「折鶴を折って募金にする」活動にも積極的に取り組んでいる。

また、去年、今年とボランティア委員長の住んでいる地域である梅津寺海岸周辺を美化委員とボランティア委員、および希望者で年に1度清掃活動をしている。活動の場所は、固定していない。学年で学校行事としていた時期もあったが、今後はどのような方向で実施するかは検討中である。

個々には、ヤングボランティアセンターの各種の活動に参加している。



ボランティア委員会が発足し、この委員会が中心となって全校生徒に呼びかけたことが発端となった。

ボランティアをすることで、高校生は中学生のリーダーとなって、指導力、統率力を培うことができた。また、校外活動では、地域の人とふれあうことで、コミュニケーションの大切さをまなび、社会貢献をすることの喜びを味わうことができた。生徒は積極性が増し、より活動的になり、来年度も行いたいと言っている。

より多くのボランティアを体験させたいと思うが、土曜日午前中の授業があり、その時間帯の活動ができないこと、参加のための交通費のことや集めた募金の管理面、安全面のことが今後の課題である。



愛媛大学附属高等学校

〒790-8566

愛媛県松山市樽味3丁目2番40号

TEL 089-946-9911

FAX 089-977-8458

明治33年 愛媛県農業学校 設立

昭和24年 県立松山農科大学附属農業高等学校 設立

昭和31年 国立に移管され、農学部附属農業高等学校と改称

平成20年 国立大学法人愛媛大学附属高等学校に改組

「地域に役立つ人材、地域の発展を牽引する人材の養成」を目指す愛媛大学の理念にもとづき、生徒に「学びに対する高いモチベーション」「地域を担う意欲」とそれを支える「確かな学力」を育て、「生きる力」を愛媛大学と連携して、培うことを目的とする。

学級数：9 生徒数 360 総合学科

愛媛大学の施設へ行ってボランティア

JRC部では、今年度から新たに取り組み始めた愛媛大学職員のための学童保育で、保育補助をしている。学童保育の対象は1年～6年。生徒1人につき、2、3人の面倒をみることになる。アクアパレットや興居島への遠足にも同伴する。子どもに目を離せない状況で責任を感じる時間だったようだ。

また、長期休暇の折に愛媛大学附属病院を訪問し、外来患者や面会者を玄関で出迎えている。訪れた方々からは、笑顔で接してくれてほっとすると言われた。

その他、小中高合同トレーニングセンター、献血の呼びかけ、ヤングボランティアセンターでの活動等をしている。



生徒の話

私が通院している病院に、毎日困っている人に声をかけているボランティアの方々を見て、強い衝撃を受けた。そのことがきっかけで、ボランティアに興味を持ち活動するようになった。活動を通じて、心から感謝できる心が身に付き、周りのことを考えた行動できるように、努力するようになった。

社会性を養うことが出来た。コミュニケーション能力を培うことで、将来、多様な人と交流し、理解しあえると思う。

社会のために何かすることで、人と人とのつながりや、あたたかさを感じるようになった。

学童保育では、児童との絆を深めるためにも、できるだけたくさん参加できるように心がけた。事故を未然に防ぐために、よく打ち合わせしたり、責任をもって行動することの大切さを学んだ。自分の学校内でのボランティアについても今後、考えていきたい。また、これから、いろんな業種の施設にも訪問したい。

ボランティアを通じて、地域の人とかかわりあいの中で、コミュニケーション能力が生まれたと思う。将来、これらの経験は、私生活や仕事の面にもつながっていくと思う。これからは、自主的なボランティア活動がもっとできるようにがんばっていきたい。



消防防災航空隊の
防災ヘリの見学

愛大附属病院
玄関前で
車イス介助
あいさつ



編集後記

平成 25 年 10 月上旬から 12 月中旬まで、愛媛県内 71 校の高等学校をまわり、地域づくりやボランティア活動についてヒアリング調査を行いました。生徒数 1000 人程のマンモス高校や、有名大学への進学率の高い高校、私立・国立高校の取り組み、また、豊かな自然に恵まれているが年々生徒数が減り続けている高校等、おかれている状況によってボランティアに対する考え方、取り組みが違います。

車で南予方面に行ったのは 11 月、紅葉の見ごろの頃でした。暖色に染った山々は私と距離を縮め、優しく出迎えてくれているように見えました。過疎化が進むその地域では、高校生は地域の担い手で、お祭り等の地域のイベントや竹林の伐採など、若者の力を必要とされているところで活躍していました。地域の方々も高校生が協力してくれることに感謝し、高校生もこの地に生まれ育って良かったと感じていることが先生の言葉でよく伝わりました。高齢者が多く地域産業のない瀬戸内の高校についても同じことが言えそうでした。地域貢献やボランティアという言葉が、敢えて使われなくても日常の生活の中で育まれている学校の生徒数が減り、存続の危機にあるというのは残念なことです。

また、「ものづくり」をテーマに専門性を生かした学校での取り組みや、町の活性化に高校生ががんばっているところもありました。

高校生は、「このようなことで喜んでもらえる」ことに驚き、「ありがとう」と言われることで、「次もやってみよう」と思うようです。日常の一つ一つが明日の彼らにつながります。

2001 年、アメリカ合衆国ハワイ州のオアフ島沖で、愛媛県立宇和島水産高等学校の練習船「えひめ丸」がアメリカ海軍の原子力潜水艦に衝突され沈没した事故がありました。水産高校には慰霊塔があります。高校生を乗せて現在もえひめ丸は海へ出ていきますが、あの悲惨な事故を忘れまいと水産高生が近隣の小学校へ出前授業に行っているそうです。危険と隣合わせにいることを彼らは意識し、小学生に教えることで命の大切さを知るでしょう。

自主的なボランティア活動をするための始まりは、部活動であったり、特別活動であったり、授業の中であったりすると思います。今回、ヒアリング調査にあたり、特活、生徒会、JRC 部、人権委員会、ボランティア部、VYS 部、家庭クラブ等の顧問の先生にお話を伺いました。あらかじめ資料を用意していただいたり、ボランティアに対する思いを語っていただいたり、顧問をされている活動について語っていただいたり様々でした。ボランティアという言葉の捉え方も学校によって違い、限られたスペースのためヒアリング内容をすべて載せることが叶わず、一貫性のないレポートになってしまったことを深くお詫び申し上げます。

高校というフィールドで、ボランティア学習を通じて自分を認め、他者を愛し、共に生きることを体感してほしいと思っています。それが、かれらの将来を実りあるものにすると信じています。

最後になりましたが、お忙しい中、調査にご協力していただいた 71 校の先生方に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

私達のクラブは 結成 60年 を迎えます



私達のクラブも、高校生ボランティアを応援します

松山ホストライオンズクラブ